

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 連絡協議会について

1. 構成員（10名）

	所属・役職	専門分野等
1	北海道科学大学薬学部・教授	学識経験者
2	一般社団法人北海道医師会・常任理事	医療関係者（小児科医）
3	北海道がん診療連携協議会・会長	医療関係者（がん専門医）
4	北海道看護協会	医療関係者（がん専門看護師）
5	北海道保健福祉部健康安全局がん対策等担当課・課長	保健福祉部局
6	北海道がん患者連絡会・副代表世話人	がん経験者
7	北海道中学校長会	中学校長
8	北海道高等学校長協会	高等学校長
9	北海道養護教員会	養護教諭
10	北海道町村教育委員会連合会	自治体教育長

2. 開催時期、検討内容

第1回連絡協議会	令和5年8月18日（金）	オンライン	出席者 9人
〈説明〉 事業概要、令和5年度がん教育に関する計画 〈協議〉 「外部講師の活用に向けて」			
第2回連絡協議会	令和5年12月22日（金）	書面	出席者 10人
〈報告〉 令和4年度がん教育実施状況調査結果（文部科学省）について、令和5年度がん教育研修会（北海道教育委員会主催）について、令和5年度がん教育実践校（外部講師による講話）について 〈資料〉 がん教育実践校における事業計画			
第3回連絡協議会	令和6年2月9日（金）	集合・オンライン	出席者 9人
〈説明〉 がん教育実践校及び外部講師活用協力校における取組、令和5年度がん教育研修会、外部講師活用に向けた動画教材、今後の取組について 〈協議〉 「外部講師を活用したがん教育の推進に向けて、今年度の取組及び次年度の取組に向けた方策について」			

② 教育委員会としての取組

1. がん教育実践校（以下、実践校という。）における取組の推進

- ・実践校として中学校2校、高等学校2校、計4校を指定

中学校	厚沢部町立厚沢部中学校、本別町立本別中学校
高等学校	北海道札幌南陵高等学校、北海道羽幌高等学校

- ・保健体育科（保健分野・科目「保健」）におけるがん教育の充実を図るため、授業検討会議を3回実施

〈ねらい〉 北海道のがん教育の推進に向け、現状や課題、課題解決に向けた方策について共有するとともに、モデルとなる指導計画及び指導案を作成し、全道に周知する。

〈出席者〉 実践校のがん教育担当者、実践校を所管する教育局の担当指導主事

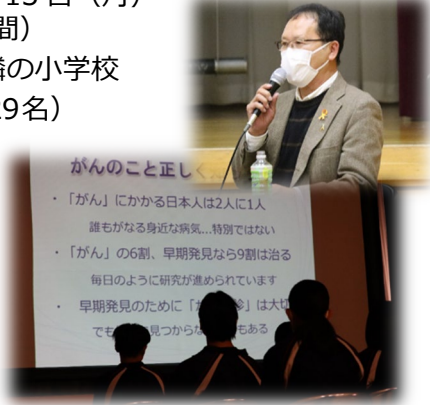

〈講師〉 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 教授 杉崎弘周氏

第1回授業検討会議	令和5年10月17日(火)	オンライン	出席者 10人
〈内 容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・説明「本事業及び実践校の役割について」(北海道教育委員会) ・講義「学習指導要領を踏まえたがん教育の進め方」(杉崎教授) ・交流「各校におけるがん教育の取組」 			
第2回授業検討会議	令和5年11月14日(火)	オンライン	出席者 10人
〈内 容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・報告「外部講師と連携した事例について」(実践校2校) ・授業検討「一単位時間の授業の構築」(助言 杉崎教授、まとめ 北海道教育委員会) 			
第3回授業検討会議	令和6年1月23日(火)	オンライン	出席者 9人
〈内 容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・報告「外部講師と連携した事例について」(実践校2校) ・授業検討「指導計画等の検討」(助言 杉崎教授、まとめ 北海道教育委員会) ・まとめ「授業検討を通して」(杉崎教授) 			

2. 実践校及び外部講師活用協力校(以下、協力校という。)における外部講師と連携した取組の推進
 ・実践校4校のほか、協力校として中学校2校を指定

実践校	外部講師 所属(職種等)	実施日・内容等
厚沢部町立 厚沢部中学校	函館五稜郭病院 がん相談支援センター (看護師)	日時：令和5年11月6日(月)5校時(50分間) 対象：全学年、町内小学校5,6年生(計130人) 主な内容： がんについての基礎知識、要因と予防、がん検診、日本のがん罹患率、がん相談支援センターの役割
本別町立 本別中学校	本別町 国民健康保険病院 (学校医)	日時：令和5年12月13日(水)6校時(50分間) 対象：2学年(25名) 主な内容： がんに関わる理解と、検査・治療の現状など
北海道札幌 南陵高等学校	地域マネジメント・ アソシエイツ代表理事 (がん経験者)	日時：令和5年9月11日(月)5・6校時(120分間) 対象：全学年、保護者、 地域住民(計230名) 主な内容： がんの種類や自身の手術の体験談、前向きな気持ちと免疫力の高まりなど
北海道 羽幌高等学校	ピンクリボン・ディスカバ (北海道がん患者連絡会)	日時：令和5年12月1日(金)4校時(50分間) 対象：2学年(34名)、高等学校 保健体育科教諭 主な内容： 自身の体験談のほか、がんのリスクを考えるためのビンゴゲーム、乳がん触診モデルを活用した触診体験など



協力校	外部講師	実施日・内容等
別海町立 中西別中学校	がん患者・家族の支援会enn (北海道がん患者連絡会)	日時：令和5年11月13日(月) 3校時(50分間) 対象：全学年及び近隣の小学校 5、6年(計29名) 主な内容： がんという病気を 正しく知ること、治 療と支援、患者の思 いと生活、命の大切 さと人とのつながり など 
小樽市立 長橋中学校	小樽市立病院 腫瘍内科医療部、外来化学 療法室 (医師) 患者支援センター (看護師)	日時：令和5年12月14日(木) 6校時(50分間) 対象：全学年(326名)、 保護者 主な内容： がんは早期発見で治る 病気であること、定期的な 検診を行うことの必要性、 がんになった際の周囲の精 神的な支えやがん患者との共生についてなど 

3. がん教育研修会の開催

- 外部講師対象研修会及び教職員対象研修会を同日に開催

がん教育研修会	令和6年1月26日(金)	集合・オンライン	参加者 91人
<p>〈参加者内訳〉 外部講師 26人、教職員 65人</p> <p>〈内容〉 外部講師及び教職員合同で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明「外部講師と連携したがん教育」(北海道教育委員会) 講演「学校におけるがん教育の推進～授業づくりのポイントと外部講師の活用～」 (筑波大学 名誉教授 野津有司 氏) 説明「北海道におけるがん教育の現状と課題について」 (北海道教育委員会) 説明「北海道におけるがんの現状について」 (北海道保健福祉部健康安全局地域保健課がん対策等担当課) 実践発表(令和4年度中学校実践校、高等学校実践校、外部講師(看護師)) 交流・質疑応答・発表 			

4. 外部講師の活用体制の整備

- 外部講師リストの掲載団体・施設等の拡充

北海道がん診療連携協議会、北海道医師会、北海道がん患者連絡会、北海道対がん協会の協力のもと、外部講師を拡充

- 外部講師リストを活用した講師依頼の流れを周知

「外部講師依頼の基本的な流れ」を示し、外部講師リストの活用を促進

- 外部講師リスト及び講師依頼の流れをWEBページに掲載

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/gannokyouiku.html>

- がん教育動画教材の作成

北海道の地域性を踏まえ、関係施設及び団体等の協力のもと、授業で活用できる短時間の動画を作成

- がん教育研修会において実践を周知

がん教育研修会において、外部講師リスト及び講師依頼の流れの周知、外部講師を活用したがん教育を実施した前年度実践校及び外部講師として講話等を行った医療従事者が、それぞれ実践を発表

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

専門機関等	連携内容
一般社団法人北海道医師会	連絡協議会構成員、外部講師リスト、動画教材
北海道がん診療連携協議会	連絡協議会構成員、外部講師リスト、動画教材
北海道看護協会	連絡協議会構成員
北海道保健福祉部健康安全局がん対策等担当課	連絡協議会構成員、研修会等
北海道がん患者連絡会	連絡協議会構成員、外部講師リスト、動画教材、研修会等
北海道中学校長会	連絡協議会構成員
北海道高等学校長協会	連絡協議会構成員
北海道養護教員会	連絡協議会構成員
北海道町村教育委員会連合会	連絡協議会構成員
北海道対がん協会	外部講師リスト、「がん予防道民大会」への地域高校生への参加等

(2) モデル校（がん教育実践校）における取組

※外部講師との連携については、②2に記載済み

実践校	保健体育科（保健分野・科目「保健」）指導計画及び工夫のポイント
厚沢部町立 厚沢部中学校	<p>単元名「健康な生活と疾病の予防」（全8時間）</p> <p>1時間目：生活習慣病の起こり方 2時間目：生活習慣病の予防 3時間目：がんの予防 4時間目以降 略</p> <p>〈工夫Point〉単元を通して、生涯を通じて健康で活力のある生活を送るための基盤を育成できるよう工夫する。</p>
本別町立 本別中学校	<p>単元名「健康な生活と疾病の予防」 2 がんとその予防（全2時間）</p> <p>1時間目：がんとその予防 2時間目：外部講師による講話（医師）</p> <p>〈工夫Point〉ICTを活用し、実際の細胞ががん化する過程をイメージしやすくし、生徒自身が予防策について考えを深められるよう工夫する。</p>
北海道札幌 南陵高等学校	<p>単元名「生活習慣病などの予防と回復」（全4時間）</p> <p>1時間目：生活習慣とは何か、生活習慣病を予防するためにできることを考える。 2時間目：「がん」の仕組みや特徴のほか、リスクの軽減や生活習慣との関連について調べ、発表 3時間目：「がん」の治療方法、緩和ケアの重要性など 4時間目：がん患者との共生に必要なこと</p> <p>〈工夫Point〉生徒が自分事として考えられるよう、ペアワークやグループワークを活用し、自分たちで調べ、考えを共有する機会を設けるなどの工夫をする。</p>
北海道 羽幌高等学校	<p>単元名「生活習慣病などの予防と回復」（全3時間）</p> <p>1時間目：生活習慣病の種類、がんの原因、リスクの軽減と予防 2時間目：外部講師による講話（がん経験者） 3時間目：緩和ケア、社会的対策など</p> <p>〈工夫Point〉講話の際に、単語やフレーズ、気になった発言や感じ取った気持ちなどを記入できるよう、学習プリントを用意し、感想だけでなく、今後のがんとの向き合い方に視点を置いて参加できるよう工夫する。</p>



※指導計画及び本時案をWEBページに掲載し、周知する予定

2. 事業の達成度について

- 外部講師と連携したがん教育の意義について教員の理解を促すため、「がん教育研修会」（北海道教育委員会）において、外部講師リスト及び外部講師依頼の基本的な流れを示し、外部講師と連携したがん教育についての説明をしたり、実践校による発表の時間を設定したりしたところ、参加者アンケートでは、「大変役立った」「おおむね役立った」が合わせて 90%となり、「学校と外部講師の事前打合せの大切さを知ることができた」「実践を聞き、がん教育のイメージをつかむことができた」など肯定的な感想が複数みられた。
- 保健体育科教諭による学習指導要領に対応したがん教育の授業改善を促すため、実践校における保健体育科担当教諭及び所管する教育局担当指導主事のほか、保健体育担当指導主事及び保健科教育を研究の専門としている大学教授に出席いただき、指導計画及び本時案について検討する授業検討会議を開催した。今後、検討した指導計画等をモデルとして、道内の各学校が自校の実情に合わせて活用し、授業改善につながるよう広く周知する。
- 学校が広域に分散している北海道において、全ての地域で、医療従事者やがん患者等外部講師を活用したがん教育が推進されるよう、授業で活用できる動画の作成について、関係機関等に協力を依頼したところ、医療従事者やがん経験者 5 名から申し出があった。次年度以降、各学校が活用できるよう準備を進める。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育の目標を達成するため、中学校及び高等学校においては、保健体育科を中心にがん教育の充実を図るとともに、学校保健計画に位置付け、計画的、組織的に推進する必要があることから、これまでの実践校における保健体育科における指導計画や指導案等を学校に周知し、研修会等を通じて、各学校が実態に応じて効果的に活用できるよう促していく。
- 外部講師と連携したがん教育を推進するために、その意義について、引き続き教職員の理解の促進に努めるとともに、関係団体等の協力のもと作成しているがん教育動画教材の活用について広く周知していく。
- 北海道の地域性を考慮し、継続可能な外部講師の派遣体制のシステムづくりが必要であることから、関係団体等の協力のもと、学校からの外部講師に係る相談体制を整備していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 各種研修会や会議等において「学習指導要領に対応したがん教育」や「外部講師と連携したがん教育」について、積極的に情報を発信するとともに、指導計画及び本時案の普及に努める。
- 外部講師と連携したがん教育を推進するため、引き続き、関係機関等の協力を得ながら、継続可能な派遣体制の整備に努める。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

○がん教育検討委員会（9名）

（医療関係者）医師（内科）1名、医師（検診管理指導監）1名、大学教授（腫瘍内科）1名、
大学教授（看護学）1名、県の保健担当部局員（がん・生活習慣病対策課）1名

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校長各1名（計3名）

（事務局） 県学校保健担当部局員（スポーツ健康課）1名

○がん教育検討委員会ワーキンググループ（13名）

（医療関係者）大学教授（看護学）1名

（学識経験者）大学名誉教授1名

（学校関係者）小学校養護教諭3名、中学校教諭1名・養護教諭2名、高等学校養護教諭2名、
教育事務所学校保健担当指導主事3名

2. 開催時期、検討内容

○第1回青森県がん教育検討委員会（令和5年10月24日）

・学校におけるがん教育を推進するための資料作成等について

学校におけるがん教育年間指導計画（例）について、1時間の設定ではなく、各教科で複数回実施した方が効果的であることや、小・中学校の指導があることで高等学校でも各教科で様々な工夫ができること等を踏まえ、作成後は実施した上で計画表を評価し、改善していくこと等を検討した。また、青森県がん教育指導用補助資料のデータ更新について、がん・生活習慣病対策課と連携し、信用性のあるデータを活用する等、科学的根拠に基づいて更新する必要があることや、中学校教育研究会保健体育部会等を活用して、複数の方向からがん教育をしていくように促すこと等を検討した。

・外部講師確保のための体制の構築について

外部講師リストの作成について、リスト表を作成する上で、①関係機関の理解を得ること、②外部講師を招きやすい状況にすること、③依頼した講師に対しても配慮事項を確認しておくこと等を確認し、リスト化する仕組みの構築について検討した。

○第2回青森県がん教育検討委員会（令和6年2月13日）

・学校におけるがん教育指導計画（例）について

WGで作成したがん教育年間指導計画（例）について報告した。また、青森県がん教育指導補助資料について、補助資料データの更新状況、補助資料データの活用や周知方法について協議した。外部講師確保のための体制構築については、外部講師リスト作成後の指導者の質の向上や活用方法について課題があり、今後も検討が必要である。

・今後の学校におけるがん教育について

がん教育の進め方について（がん教育推進ロードマップ）

○第1回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和5年1月15日）

- ・各校の取組について
- ・第1回がん教育検討委員会の報告
- ・がん教育指導用補助資料
- ・スライド補助資料について
- ・がん教育年間指導計画例について

令和4年度のワーキンググループにおいて、学習指導要領の位置付けを基に、各校種においての指導計画（例）を作成した。作成した指導計画（例）を基に、令和5年度の取組として学校教育活動全体を通して現場の先生方が活用しやすい年間指導計画（例）の作成を進めていくことを確認し、作成に当たっては、カリキュラム・マネジメントの視点を持ちながら、各学校の行事や各教科との学習のつながり等も含めて指導計画（例）を示していくこととした。県の指導補助資料は全9項目で整理されており、これらを活用しながら各教科の学習に関連付けることで、がん教育に触れながら教科横断的な学習の計画・実践を目指すこととした。

○第2回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和5年12月13日）

- ・青森県におけるがん教育の推進ロードマップについて
- ・学校におけるがん教育年間指導計画（例）について

県が作成した補助資料では、小学校で1～4の項目の内容が配置されているが、検討委員会において小学校でのがん教育の扱いは難しいとの意見も挙げられ、活用状況調査においても小学校での活用は低い状況にある。できなかった内容を中学校で設定することも可能ではあるが、計画としては無理のないように、校種ごとに必要最小限の項目を設定し、実態に応じてできなかった内容を各学校で補充していくことが望ましいと考えた。また、発達段階に応じた指導や配慮が必要な内容ではあるが、校種による偏りが生じないよう、無理のない計画として例を示すこと等を確認し、各学校の実態に応じて作成した指導計画を基に、校種ごとの指導計画（例）を作成した。

○第3回青森県がん教育検討委員会ワーキンググループ（令和6年1月11日）

- ・学校におけるがん教育指導計画例について

各校種におけるがん教育年間指導計画（例）について、全体で協議した後、外部講師によるがん教育講演会の位置付け等も含めて指導計画の見直しを行った。次年度は、作成した年間指導計画例を基に各学校においてがん教育に取り組み、必要に応じて見直しを行っていくことを確認した。

② 教育委員会としての取組

○がん教育検討委員会とワーキンググループの開催

令和2年度にがん教育指導用補助資料を作成・配布し、令和3年度にがん教育指導用補助資料の活用状況調査を実施した。検討委員会において、補助資料のデータ更新や資料活用のための方法等について協議を進め、ワーキンググループではがん教育を推進するための年間指導計画例の作成を行った。

○がん教育推進のための講演会の実施（令和6年1月17日）

教員を対象に、がん教育への理解を深めるため、「学校におけるがん教育の考え方・進め方」と題し、聖心女子大学現代教養学部植田誠治教授による講義をオンラインで実施した。また、県教育委員会より参加者に対し、令和2年度に作成した指導補助資料等の紹介を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○青森県がん教育指導補助資料のデータ更新

県で作成したがん教育総合支援事業教材、青森県がん教育スライド補助資料について、がん・生活習慣病対策課と連携し、資料データの更新を行った。資料の活用に向けて、教員対象のがん教育研修会において、教材や補助資料を紹介し、がん教育の推進と教材の活用を促した。また、最新の情報に更新された補助教材をホームページでダウンロードできるようにし、各学校へ周知するとともに、令和6年度以降のワーキンググループで、有効活用できているかを確認することとしている。

○外部講師リストの作成について

現在、外部講師のリスト化ができていないため、過去の講師を繰り返し活用している状況であることから、学校の実情等に応じて外部講師を選定できる候補者のリストを整備するとともに、外部講師の活用手順・留意事項についても整理していく必要がある。県の事業で活用している外部講師に加え、がん診療連携拠点病院や医師会から情報を提供していただき、リスト化を進めると同時に、外部講師の依頼方法や留意事項等について整理し、各学校に周知を図ることとしている。

2. 事業の達成度について

(1) 検討委員会

検討委員会では、がん教育を推進するための資料の更新やがん教育年間指導計画例、外部講師のリスト化について検討した。また、関係部局やがん診療連携拠点病院、学校関係者が意見交換を行うことで、各々の取組内容等を共有し、今後の効果的な指導法や連携の仕方について考えることができた。

(2) ワーキンググループ

学校全体でがん教育を効果的に進めるために、体育・保健体育科の授業以外で教科横断的な取組について協議し、がん教育年間指導計画例を作成した。次年度よりモデル校において、年間指導計画を基に体育・保健体育科の授業以外の道徳や特別活動等でがん教育を進め、評価し、改善につなげていく。

(3) がん教育推進のための講演会

<参加者の感想（一部抜粋）>

- ・生徒と同様に私自身、がんに関して知らない知識、誤解していた知識があり、「正しく怖がる」ことが本当に大事だと感じ、今後も機会があるごとに研修を受け、生徒や教職員に正しい情報を伝えるように努めなければならないと感じた。
- ・外部講師を招き、がん教育を実施したが、それ以外でも他教科等で発達段階に合わせた指導の必要性を感じた。講演していただくだけでなく、年間計画等の見直しの必要性や、他教科との関連性、それを踏まえて講師の先生との連携を図るなど、次年度に向けて見直していきたいと思った。
- ・がんを知ることが病気の理解や予防だけでなく、命の価値を捉え直すために有意義であることを学ぶことができた。生活習慣病のイメージが強いがんではあるが、より詳細に見ると様々な要因がきっかけであり、そのような内容を生徒に指導していく重要性を感じた。
- ・外部講師の活用事例や指導例が取り上げられ、がん教育のイメージをもつことができた。保健学習に加えて、特別活動や総合的な学習の時間、道徳の時間にも活用して、生徒が病気や命について考える機会をもてるのが大切だと思う。
- ・県のがん教育の取組を拝聴し、自分ならどう取り組むかを考えることができた。健康教育実践校の外部講師を活用した取組では、児童生徒だけでなく保護者も対象としたものがあったのが印象的だった。

がん教育の必要性からがん教育の考え方と進め方、外部講師の活用方法や指導に当たっての留意事項等、具体的な事例を参考にしながら、各学校で今後どのように連携して取り組んでいくべきか、カリキュラム・マネジメントの視点も含めて推進していくことの必要性や重要性への理解を深めることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育の推進に向けて、学校全体で共通理解を図り、現場で活用しやすい資料の作成等について引き続き検討していく。
- 学校のニーズにあった外部講師の選定と外部講師の確保や質の保障のため、関係部局と連携し、リスト化を進めていく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- がん教育の定義や必要性等について教職員の理解を深めるための研修会を継続して開催する。
- 国や県で作成した教育指導用補助資料を効果的に活用するため、ホームページへの掲載、二次元コードの作成等、学校が活用しやすい提供方法を進める。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全体で16人【内訳：医師2人（県医師会小児科医、がん診療連携拠点病院緩和医療科医）、歯科医師1人、薬剤師1人、がん経験者1人、PTA1人、校長3人（小学校、中学校、高等学校）、養護教諭1人、県衛生主管部局1人、県教育委員会4人】

2. 開催時期、検討内容

■ 第1回協議会

(1) 開催日：令和5年8月30日（水）

(2) 協議内容

ア 令和4年度事業報告について

イ 令和5年度事業計画について

■ 第2回協議会

(1) 開催日：令和6年1月24日（水）

(2) 協議内容

ア 令和5年度事業報告について

イ 令和6年度事業計画について

■ 検討内容

(1) がん教育における児童生徒への配慮について

- 具体的な方法や事例について共有していくこと。

(2) 外部講師によるがん教育の体制づくりについて

- がん教育の充実のためには、講師、学校関係者との意見交流の機会を各地域で継続していくことが必要であること。

- 学校歯科医や学校薬剤師との連携について、検討していくこと。

② 教育委員会としての取組

1. 主な取組の経過

実施時期	実施事項
6月5日	がん教育講師派遣事業 希望のあった14校について、がん診療連携拠点病院とのマッチングを行い、通知した。積極的に参観するよう県内県立学校に通知した。
7月20日	令和5年度がん教育等外部講師連携支援事業 がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」の開催について周知した。 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、がん患者会、協議会構成員
10月5日	高等学校における外部講師と連携したがん教育の実施 ●参観者：養護教諭、保健主事、指導主事 ●意見交流会：講師、地域医療機関の医師、実践校の養護教諭、指導主事 ▶外部講師と連携したがん教育の在り方について
12月5日	「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」を活用した中学校特別活動展開例による授業実践 ●参観者：実践校教諭等3名、指導主事6名 ●授業実践後の意見交流会：授業者、実践校主幹教諭、指導主事2名

12月8日	令和5年度がん教育シンポジウムの開催について周知した。 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、がん患者会、協議会構成員
2月1日	令和5年度がん教育シンポジウムに出席し、今後の取組に向けてヒント や課題を確認した。 指導主事2名
3月	小学生向けがん教育リーフレットの配布 衛生主管部局が配布する小学生向けリーフレットの配布と活用について通知

2. 外部講師派遣事業

(1) 目的

- ア がん専門医等を派遣することにより、学校におけるがん教育の充実を図る。
- イ 外部講師と連携したがん教育の普及・啓発を図る。

(2) 対象

派遣を希望する県立高等学校、特別支援学校高等部 14校

(3) 講師

がん診療連携拠点病院の医師等

3. 教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

(1) 期 日 令和5年10月27日(金)

(2) 内 容

ア 行政説明及び実践紹介

保健体育課 主任指導主事 松村 毅

イ 講義「学校におけるがん教育の在り方と進め方」(90分)

筑波大学名誉教授 野津 有司 氏

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・外部講師の派遣について、県保健福祉部、がん診療連携拠点病院、県医師会、対がん協会等と連携して行った。
- ・県医師会との協議会、県歯科医師会との協議会において、がん教育の推進について意見交換を行った。

(2) モデル校における取組

■ 高等学校における外部講師と連携したがん教育の実施

<日 時> 令和5年10月5日(木) 6校時

<授業実施校> 岩手県立花巻北高等学校

<講 師> 岩手県立中部病院 副院長 兼第1緩和医療科長 星野 彰 氏

<対 象> 第1・2学年

■ 講義後の意見交流会

<参 加 者> 講師、地域医療機関の医師、実践校の養護教諭、指導主事

■ 中学校の特別活動における授業実践

<日 時> 令和5年12月5日(火) 5校時

<授業実施校> 盛岡市立厨川中学校

<授 業 者> 盛岡市立厨川中学校 佐々木 航 教諭

<対 象> 第2学年

<内 容> 「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業の実施
特別活動 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
テーマ「共に生きる命 ～がん患者への理解と共生～」

授業実践（目標）

がん患者やその家族との望ましい関わり方について考え、実生活に生かしていこうとする態度を育てる。

<ポイント>

- 話し合いを通して意思決定し、自分が決めたことに取り組む（実践活動）過程であること。
- 「生活をよりよくする」ことを前提に、教科等での学びを生かし、実生活につなげることを大切にすること。

4

学校におけるがん教育で取り扱う内容（例）



5

学習活動と学習内容

1 導入

ある高校生の保護者のがんが子供に及ぼす影響について予想する。

2 展開①

がん患者やその家族に対する自分の関わり方について予想する。

「次のようなケースにおいて、みなさんは友達やその患者にどのように接するか予想してみよう。」

<ケース>小さい頃からよく遊んでいる友達の母親が、がんになったことが分かり入院している。この母親には、自分も小さい頃から面倒をみられている。

7

学習活動と学習内容

2 展開①

【手順1】各自の接し方を考える（付箋に書き出す）



【手順2】グループごとに模造紙にグルーピングする
「積極的な関わり」
「積極的でない関わり」
「その他」



【手順3】学級の意見を整理する

9

学習活動と学習内容

3 展開②

がん患者やその家族が望んでいる関わり方を理解する。

「今、みんなで予想した接し方に対して、友達やその母親はどんな気持ちなんだろう。」

<がん患者の手記>

友人という時間は、病気とは何の関係もない自分でいられる時間です。何でもない話をして、一緒に笑って、共に過ごすことで「患者」としてではない、これまでどおりの「自分」を取り戻せるような気がします。

『身近な人ががんになったとき 地域・職場・学校で役立つがんの知識と情報』（国立がん研究センターがん情報サービス）

12

本時の学習のまとめ

★行動宣言

- ・相手の悩みや気持ちに寄り添えるような対応をしたい。
- ・周りの人が何かあった時も、その人が楽しく過ごせるように接してあげたい。
- ・どんな状況でも、接し方を考えたいと思った。
- ・困った人や辛いことがあった人がいたら寄り添っていきたい。
- ・当たり前のように、生活を、より良く生きたい。
- ・がんに限らず、何かあったらその人の気持ちを考えて行動していきたい。
- ・相手の人や立場を考慮してあげられる人になる。
- ・がんになった人のことも、その周りの人のことも考えられるようになりたい。
- ・困っている人や辛い人のそばにいてあげたいと思った。
- ・どんな人でも同じように接する。

15

本時の学習のまとめ

4 まとめ

授業を振り返り、思ったことや考えたことを学習シートにまとめてみよう。

◆今日の授業を振り返ろう

- ・患者さんへの接し方をグループで話し合ったことで、様々な接し方があることがわかった。
- ・積極的でない接し方もいろいろあると分かってよかった。
- ・がんは身近にあると改めて思った。1日1日を大切にしたい。
- ・がんについて深く考えたことがあまりなかったけど、今日の学習を通して、皆と話し合いのとき、自分の周りにがんになった人がいたとき、どうやって接していけばよいか考えることができた。
- ・人によって、されて嬉しい関わり方と、されたくない関わり方があると思うから、自分なりに考え接していこうと考えました。

14

2. 事業の達成度について

(1) 教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

■参加者数 111名

【校種別内訳】小学校教諭 57名、中学校教諭 27名、高等学校教諭 15名、特別支援学校教諭 3名
学校薬剤師 6名、看護師 1名、PTA 1名

講義と演習をとおして学習指導要領に対応したがん教育の進め方について理解を深めることができた。
また、「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の活用を促進することができた。

【実施後アンケート 一部抜粋】

学校所属参加者 102名中「たいへん有意義であった」58名、「有意義であった」43名

(高) がん教育については、実施後も医学は進歩し続けることを考慮し、継続的・応用的・発展的に考えていけるよう指導することが必要だと分かった。

(中) 講義で、「すべての子どもに夢と希望が膨らむ健康教育」「すべての子どもに真剣に考える時間と材料と仲間を保障する健康教育」というお話がありました。その言葉を念頭に置いて、明るく楽しい時間になるように、健康教育の指導方法・教材化の工夫をさらに図っていきたいと思いました。

(小) がん教育について、授業づくりのポイントやがん教育指導向けマニュアルを参考にし、指導に繋がっていきたいです。

(小) がん教育への取組はとてもハードルが高く感じていましたが、やってみようという気持ちになりました。がん教育だけに限らず、保健教育を進める上で授業づくりのヒントをたくさんいただきました。

(2) モデル校における授業実践

■「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業を実施し、授業のねらいを達成することができる展開例であることを確認することができた。

■保健体育保健分野において、がんの知識を学習した後に実施することにより、がん患者やその家族との関わり方について考えることを通して、学びを実生活に生かしていこうとする態度の育成に効果的であることが確認できた。

■外部講師と連携したがん教育実施後に行った意見交流会において、高等学校におけるがん教育実施上の課題等について共有することができた。

(3) 外部講師派遣事業の実施

■実施校

高等学校 13校、特別支援学校（高等部）1校、対象生徒人数合計 1,808人

【実施校の報告より】

・がん患者との共生として普段と変わらずに寄り添う姿勢が大切であることを学び、がん患者への関わり方に限定せず日常の中で取り入れようとする姿が見られた。

・受講者の感想から、がんに対する理解が深まったことがうかがえる。また、患者・家族・医療者それぞれの思いに触れ、自分事としてとらえられたようである。

・事前・事後アンケート結果より、講話実施後のがんの学習が健康な生活を送るために重要であり、役に立つものであると感じた生徒が増えた。特に「がんになっても生活の質を高めることができる」に肯定的な回答をした生徒が75%以下（73.3%）から85%以上（87.5%）に増加している。がん患者を支えるさまざまな機関を紹介したことで、サポート体制が充実してきていることを認識し、肯定的な回答が増えたと考えられる。

・保健の授業後に講演会を位置づけ、教科で学習したがんに関する原因や予防及び治療法等についての基礎知識を深めることができた。がんについての正しい情報の入手方法や相談機関を知ることが出来た。がんの体験談を聞くことで患者の思いを実感し、社会の一員としてできることは何かについて主体的に考えることができた。市内小中学校や支援学校等様々な校種の教員が参加し地域にがん教育を普及することに貢献した。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

【課題】

- (1) 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」を活用した授業は効果的であることから、実践の共有と活用の推進が必要である。
- (2) 外部講師派遣事業では、より効果的な授業実践につなげるため、講師と学校関係者との意見交流を持つこと必要である。
- (3) がん教育において、配慮が必要な児童生徒への対応について不安を感じている学校が多いことから、具体的な方法や対応事例を共有する必要がある。
- (4) 特別活動等の時間確保に課題を持つ学校がある。

【次年度の取組】

- (1) 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」を活用したモデル授業の実施を継続し、実践を共有していくことにより、各校におけるがん教育の充実を図ること。
- (2) 外部講師派遣事業において、地域の学校への参加案内と授業後の意見交流会の実施を行うよう周知すること。
- (3) 配慮が必要な児童生徒への対応について、実践交流や協議を行う時間を確保学校保健推進者対象、保健体育科教諭対象等の各種研修の内容を工夫する。
- (4) 保健体育科の授業における外部講師の活用について検討し、モデル授業を実施する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 学習指導要領の内容及びがん教育の進め方について保健体育科教員の研修の充実が必要であること。
- ・ 外部講師と連携したがん教育をより効果的なものにしていくため、また、外部講師の拡充のためには、外部講師（医療関係者等）と学校関係者、指導主事等が、実施後の意見交流を行い、その内容を共有していく体制づくりが必要である。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

○全員で13人

大学教授1人（がん教育アドバイザー、がん専門医）、医療関係者2人（県医師会学校保健担当医、がん看護専門看護師）、がん経験者1人、校長2人（中学校・高等学校）、養護教諭1人、健康福祉部局1人、行政関係者5人（県教育委員会）

○連携先

秋田県医師会、秋田県看護協会、秋田県がん患者団体連絡協議会、秋田県保健福祉部局

2. 開催時期、検討内容

期 日	出席者	内 容
令和5年 8月30日	12名	第1回がん教育推進協議会 ・令和5年度秋田県がん教育推進事業について ・がん教室外部講師の確保について ・がん教育外部講師リストの作成について
令和6年 1月31日	13名	第2回がん教育推進協議会 ・令和5年度秋田県がん教育推進事業の成果と課題について ・外部講師リストの作成と活用について ・令和6年度秋田県がん教育推進事業について

② 教育委員会としての取組

1. がん教育アドバイザーの委嘱

○秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授 安藤秀明氏

【がん教育アドバイザーの役割】

- ・事業全般への指導助言
- ・がん教育推進協議会における指導助言
- ・外部講師研修会講師、外部講師への助言等

2. がん教室に外部講師（医師と経験者）を派遣

- 中学校、高等学校、特別支援学校高等部 11 校に外部講師を派遣し、13 校で実施（そのうち2校はオンラインを活用）
- がん教室の内容等については、「(2) モデル校における取組」に記載

3. がん教育指導者研修会の開催

- 期日：令和5年11月2日
- 場所：秋田県総合教育センター
- 参加者：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員 105 名参加
- 内容：説 明 「学校におけるがん教育について」 県教育庁保健体育課担当
講義Ⅰ 「がん専門看護師の立場から学校現場の職員に伝えたいこと」
秋田大学医学部附属病院 看護部 がん看護担当看護師長 今野 麻衣子 氏
講義Ⅱ 「がん教育と親のがんを子どもに伝える」
乳腺外科・内科 はしづめクリニック 院長 橋爪 隆弘 氏
分科会 「自校におけるがん教育の取組について」

4. がん教室外部講師研修会の開催

- ・集合とオンデマンドの両方で開催予定だったが、大雨災害によりオンデマンドのみに変更して実施
- ・視聴期間：令和5年8月下旬～12月下旬
- ・対 象：既存の外部講師リスト登録者、がん教育に関心のある医療従事者、がん経験者等
- ・受 講 者：18名（医療関係者11名、がん経験者7名）
- ・内 容：資料説明 「学校におけるがん教育について」 県教育庁保健体育課担当
講 義 「いかにしてがんを子どもたちと一緒に考えるか」
秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授 安藤 秀明 氏

5. 学校で活用する外部講師リストの作成

- 第1回推進協議会において、リストの作成方法等を検討
- 既存のリスト登録者、がん教室外部講師研修会受講者に趣旨を説明し登録票を送付
- 外部講師リストと活用マニュアルを学校に周知（予定）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

1. がん教室外部講師研修会

- 県保健部局から秋田県がん患者団体連絡協議会に連絡の上、案内周知を依頼
- 医師会、看護協会を通して、関心のある医療関係者に案内を周知

2. 秋田県がん対策推進計画

- 第4期秋田県がん対策推進計画の「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」の中に、学校における外部講師を活用したがん教育の実施率を目標として設定

(2) がん教室実施校における取組

中学校9校、高等学校3校、特別支援学校高等部1校、計13校において、各学校の計画に基づき、医師とがん経験者をペアで派遣し、がん教室を開催した。

【がん教室実施校】

学校名	テーマ
能代市立能代東中学校 能代市立二ツ井中学校	がん予防教室 ～がんについて考えよう～
三種町立八竜中学校	がんの正しい知識を学び、がん予防の生活習慣を身につけよう
秋田市立秋田北中学校	がん教室 ～今、自分にできること～
由利本荘市立鳥海中学校	がんについて知ろう！学ぼう！
大仙市立西仙北中学校	がんと生きる
仙北市立神代中学校	がんと生きるために
湯沢市立湯沢北中学校	あなたにとって「生きること」とは？

学校名	テーマ
-----	-----

湯沢市立皆瀬中学校	たくましく生きる～がんを学んで～
県立金足農業高等学校 県立新屋高等学校(オンライン)	がんについて正しく理解し、健康と命の大切さを考える
県立男鹿海洋高等学校	前半「がん」という病気と、検診、治療法 後半「がん」で大切な人を失わないために、自分に何ができるか
県立比内支援学校	がんについて関心をもち、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付けるとともに、健康や命の大切さについて考える

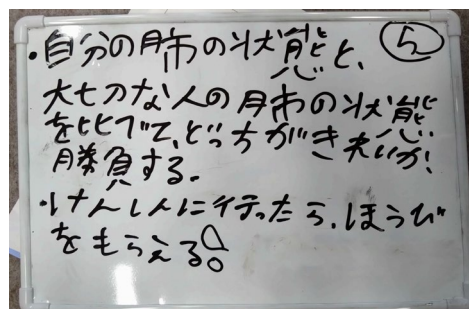
【がん教室の実施が決まった学校の取組】

令和5年度 3月	希望調査	・希望日、対象学年、実施場所等を保健体育課に提出
6月	実施校決定	・がん教室に関する資料、外部講師連絡先、アンケート等を収受 ・外部講師に連絡し、がん教室と打合せの日時について確認 ・事前アンケートの実施
実施前	事前打合せ 事前指導	・生徒の実態、学校の要望等について打合せ ・事前アンケートを基に、講話内容等を決定 ・保護者、生徒にがん教室の実施、内容を周知し、配慮しなければ ならない生徒について把握し、外部講師と情報共有 ・要配慮生徒への面談等 ・事前指導の実施
実施2週間前	計画書提出	・予定日時、講師名、テーマ、事前指導計画等について、保健体育課 に提出
8～12月	がん教室実施	・当日打合せで、要配慮生徒について再度確認 ・がん教室では、生徒の観察、演習等の支援
実施後	事後指導	・事後指導の実施 ・事後アンケートの実施
実施後 1か月以内	報告書提出	・実施日時、講師名、テーマ、内容の要旨、評価、アンケート集計結 果等についてまとめ、保健体育課に提出

【がん教室の流れと内容】

がん教室は授業2時間分を使用して実施している。医師や経験者の講話内容は、学校と外部講師との事前の打合せで決定する。

1 時間目	1 校長先生によるがん教室の趣旨説明 2 講話 医師によるがんの話 がん経験者による経験談
2 時間目	3 演習 がんについて学ぶグループワーク 4 総括・質疑応答



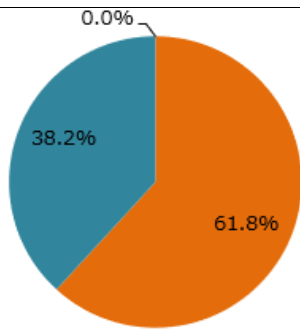
生徒の発達段階や実情に応じて内容を設定し、がんに関する正しい知識を身に付けるとともに、命の大切さを考えたり、がん患者への正しい認識を深めたりすることとおして、望ましい生活習慣について考えることができた。

2. 事業の達成度について

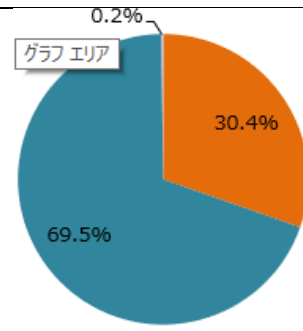
(1) がん教室事前・事後アンケート結果、感想の抜粋（がん教室実施校 13 校）

がんは日本人の死因の第 2 位である（実施前）

がんは日本人の死因の第 2 位である（実施後）

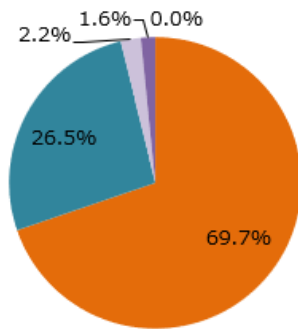


■ 正しい
■ 誤り
■ 無回答



がんになっている人も

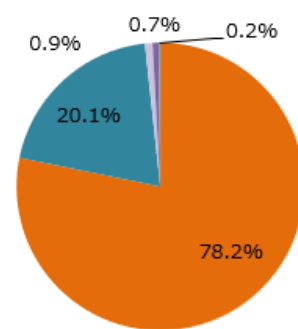
過ごしやすい世の中にしたい (実施前)



■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ 思わない
■ 無回答

がんになっている人も

過ごしやすい世の中にしたい (実施後)



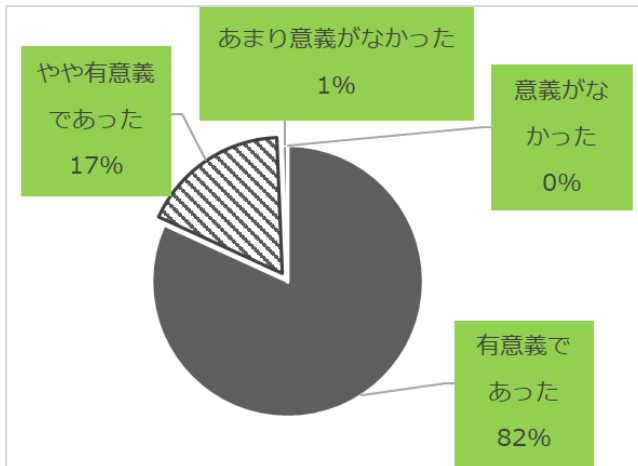
- ・がん細胞は、1日で5,000個も作られているということに驚いた。がんは、1cmになるまでに10~20年かかることを知り、今からできることをして、少しでもがんになる確率を下げられるといいと思う。
- ・今までがんは不治の病だ、死んでしまう病気だと思っていたが、がん教室を受けて、定期的ながん検診を受け、早期発見することでがんは治りやすくなること、バランスの良い食事や適度な運動、禁煙、禁酒を心掛けることでがんを予防できることを学んだ。
- ・がん教室をとおして、がん=死の病ではないことが分かった。がんは仕事をしながら治療していく時代だという話を聞いて、これからそれぞれの会社や社会全体がこのような考え方に理解をもち、制度やシステムを改め、仕事と並立して治療を行っている人たちが働きやすい世の中になってほしいと思った。
- ・保健や理科の授業よりもがんという病気が現実のものとして身近に感じられた。予防のために何ができるか、友だちと考えを出し合えたことがよかった。

がん教室のねらいである、「がんに関する正しい知識を身に付ける」と「命の大切さを考えたり、がん患者への正しい認識を深めたりすることをとおして、望ましい生活習慣を形成する」の両方について、事後アンケートの数値が高まっている。また、感想から医師、経験者、それぞれでなければわからない知識や心情、

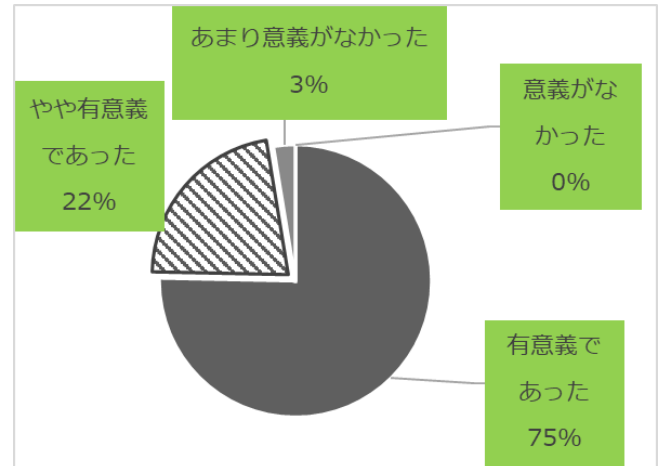
気持ちの変化を理解していることがわかり、子どもたちの心に残るがん教室を展開でき、ねらいの達成につながっている。

(2) がん教育指導者研修会アンケート結果、感想の抜粋

【講義 I・II について】



【分科会の協議について】



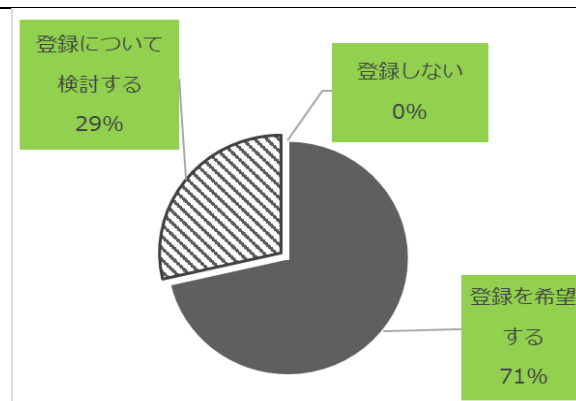
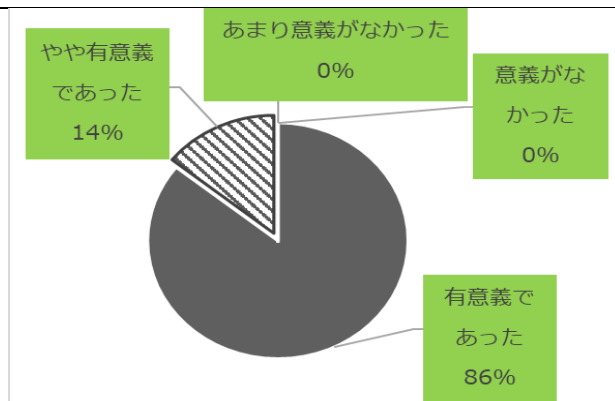
- ・保健体育の担当者だけでなく、教育課程の中にどのように位置付けられるか、教務主任や保健主事、学年主任などの参加を呼び掛け、学校として取り組む体制づくりの説明があるといいと思う。
- ・がん教育を進めるに当たっての課題であった専門知識、資料の確保など解決策が見つかって活用していきたいと思った。
- ・がん教育講座で実施している内容を実際に体験したり、視察したりできれば、もっとイメージしやすい。

今年度は、4年ぶりに集合型で開催し、校種別の分科会で情報交換と協議を行った。お互いの学校の現状や課題を知ることができ、有意義だったとの感想が多かった。今年度のアンケートの感想や意見は次年度の研修内容等に生かし、分科会での協議もテーマを変えて実施したい。

(3) がん教室外部講師研修会アンケートの結果、感想の抜粋（動画視聴後回答：7人）

【資料や研修動画について】

【外部講師リストの登録について】



外部講師研修会は、がん教室の内容の充実と、外部講師リストに登録する方の不安の解消に効果的であった。オンデマンドでの実施だったが、外部講師同士のつながりを深めるためにも、次年度は集合とオンデマンドの両方で実施したい。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育アドバイザーに外部講師の研修や、がん教室を行うに当たっての不安に対してフォローしていただくことで、外部講師を増やすことにつながった。今後も外部講師を安定的に確保し、がん教室の内容の充実のためには、外部講師研修会等を継続して実施していく必要がある。
- ・がん教室の実施を希望する学校数は年々増加傾向にあるが、本課から希望校すべてに外部講師を派遣することが難しい状況である。実施校を増やす取組として、2校でオンラインを活用してがん教室を実施した。接続校で、動画がうまく流れない、話をしている医師の表情が見えないなどの課題があり、実施方法については学校の機材等に合わせて改善していく必要がある。
- ・がん教室の実際を知っていただくため、実施校のがん教室を公開授業として、地域の先生方、外部講師候補者が参観できるようにしていく。

4. がん教室実施校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・学校における外部講師を活用したがん教育の推進には、管理職を含めた学校の教職員の共通理解が必要である。教員向けのがん教育指導者研修会には、管理職や保健主事の参加を呼びかけ、保健体育科教員や養護教諭だけでなく、学校全体で取り組む体制づくりについて周知する必要がある。
- ・外部講師を活用したがん教室を、各校で実施しやすくするために、学校から直接外部講師に依頼できる外

部講師リストと活用マニュアルを作成した。運用していく中で、学校が活用しやすいよう、定期的に見直し、更新していく必要がある。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で16名）

- ・管理指導医1名、がん専門医1名、緩和ケア科医師1名、がん経験者1名、小学校長会1名、中学校長会1名、高等学校長会1名、特別支援学校長会1名、養護教諭連絡協議会1名、県健康福祉部局1名、県教育局スポーツ保健課長1名、県教育局スポーツ保健課事務局5名

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回（令和5年7月14日）：がん教育の普及・推進に向けた計画の検討
- ・第2回（令和6年1月30日）：がん教育に関する実践の検証、次年度方針の検討

② 教育委員会としての取組

1. 推進校の指定（4校）

大蔵村立大蔵中学校、山形県立東桜学館中学校、山形県立東桜学館高等学校、山形県立荒砥高等学校

・推進校への外部講師派遣

★山形県立荒砥高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和5年9月20日 <対象：1～3学年75名>

講師：訪問診療クリニックやまがた 院長 奥山慎一郎 氏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院 理学療法士 黒田 昌宏 氏

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★大蔵村立大蔵中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和5年10月11日 <対象：1～3学年69名>

講師：山形県立河北町病院 医師 深瀬 龍 氏

有限会社メディカ 薬剤師 星 利佳 氏

内容：「がん」について、また「がんと共に生きる」ことについて学ぶ講演会

★山形県立東桜学館高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和5年10月20日 <対象：1学年203名>

講師：一般社団法人MY wells 地域ケア工房 代表 神谷 浩平 氏

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立東桜学館中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和5年11月14日 <対象：2学年99名>

講師：訪問診療クリニックやまがた 院長 奥山慎一郎 氏

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院 がん看護専門看護師 齋藤 智子 氏

内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

2. がん教育指導者・外部講師研修会の開催

令和5年度山形県健康教育研修会「がん教育指導者・外部講師研修会」

日時：令和5年10月26日 <参加者：79名>

行政説明：（1）「子どもの健康づくり連携事業について」県教育局スポーツ保健課担当

（2）「山形県におけるがん教育の推進について」県教育局スポーツ保健課担当

講師：筑波大学 名誉教授 野津 有司 氏

演 題：『学校におけるがん教育の在り方と進め方』

会 場：山形市総合スポーツセンター 大会議室（Zoom を活用したハイブリッド開催）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・ 県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課との連携を図り、推進校に「大切な家族へ検診受診を促すメッセージカード」を配布
- ・ 県健康福祉部及び県がん診療連携協議会等との連携を図り、県内外講師リストを作成

(2) モデル校における取組

【大蔵村立大蔵中学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）

* ②山形県教育委員会としての取組「1. 推進校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：保健分野（具体的な事例について、がんへのり患リスクやリスクの軽減方法を考える授業の実践）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立東桜学館中学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）

* ②山形県教育委員会としての取組「1. 推進校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：保健分野（「大切な家族と豊かな人生を送るために実践できることは何か」を考える授業の実践）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立荒砥高等学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）

* ②山形県教育委員会としての取組「1. 推進校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：科目「保健」（具体的な事例について、グループ活動を通して、「生きる」ことについて考える授業の実践）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

5 時間：課外活動（生徒保健委員会による「がん」をテーマとした研究・発表および保健指導）

【山形県立東桜学館高等学校での取組】

0 時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

1・2 時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）

* ②山形県教育委員会としての取組「1. 推進校への外部講師の派遣」を参考

3 時間：SS 健康科学「SS 保健」（がん患者とその家族への理解と共生について、習得した知識を生かして自他や社会の課題解決方法を思考・判断し、理解を深める授業の実践）

4 時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

<中学校> ①がん教育講演会の様子



<中学校> ②授業の様子



<高等学校> ①がん教育講演会の様子



<高等学校> ②授業の様子



2. 事業の達成度について

推進校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）

質 問	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	87.3	92.6	5.3
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	86.4	92.9	6.5
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	64.4	81.2	16.8
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	58.4	78.2	19.8
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	26.0	50.3	24.3
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	53.1	67.1	14.0

(%)

<外部講師によるがん教育講演会実施後のアンケート>

- ・ 遺伝子の突然変異によって生まれる、死なない細胞と聞いてびっくりした。がんにならないために「バランスの良い食事」「適度な運動」などを心がけて生活していきたい。また、脳には転移しやすいと初めて知った。頭痛やけいれんなど様々な症状が起こるとわかった。脳は体全体をコントロールしているから、脳に転移すると大変だと感じた。【中学3年】
- ・ 今日の講演を通して「がん」とは異常な細胞がたくさん増えることだとわかった。また、がんになると精神的に辛くなることもわかった。実際私の祖父もALSという病気と肺がんで亡くなったが、祖父はいつも「自分なんてもうダメだ」「もういい」と言っていた。そのとき私も、祖父にもっと優しく接していれば良かった。必ずがんにならないとは限らないけど、しっかり予防して後悔しない人生を送りたい。【中学3年】
- ・ がんは2人に1人がかかってしまう病気だけれど、日常生活の過ごし方によって予防できることを知った。がんの治療法の確立によって、がん=死ではなくなっただけけれど、がんの患者は多いため、病気への予防を心掛けたいと思った。検診を受けることで早期発見ができ、助かる命が多くなったけれど、がんにかかってしまった場合、周りの支えがとても重要になることがわかった。【中学2年】
- ・ がんにはいろいろな種類があることがわかった。ドラマなどを見ていてがんになると生存率が低いと思っていた。しかし、「がん=人生終わりではない」と聞いて少し安心した。さらにがんになる原因は、自分の周りの環境や習慣にもあることに驚いた。緩和ケアについて何も知らなかったけれど、がんになったとしても完全に終わりではなく、支えてくれるものがあると思うと安心した。【高校1年】
- ・ 誰にでもなりうる病気だとは思っていたが、様々な治療法があり、人それぞれに合った治療法がある病気だと感じた。がんに限らず、罹らずとも命はいつか尽きることを知っておいて、身近な人の死を受け入れ、なるべく良い最期を迎えられるように一緒に模索することができるような人間になりたい。また、他者をリスペクトし思いやれる人間になれるよう精進していきたい。【高校1年】

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

❖ 広報活動の充実（継続）

推進校における実践の様子を一般公開するとともに、各種研修会や県ホームページ等でも紹介し、学校における保健指導を支援する。

❖ 県内外部講師リストの整備（継続）

県内関係機関の協力を仰ぎながら、外部講師の体制整備を強化する。

❖ がん教育指導者・外部講師研修会の内容等の検討

県立学校を対象とした健康教育研修会を兼ねて実施しているが、参加者それぞれが実りある研修となるよう開催方法、回数および内容等の見直しを図る。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

■ 外部講師の活用

県の事業「子どもの健康づくり連携事業」の専門医派遣事業と連携し、推進校以外でのがん教育推進を後押ししていく。

■ 各学校における保健教育の推進に向けたがん教育の実践例等の紹介、周知

養護教諭や保健体育科教諭をはじめ、学校全体におけるがん教育の必要性は広まりつつあるが、今後更なる教職員全体への理解が求められる。がん教育の指導にあたっては、時間の確保や指導方法に難しさを感じている学校が多いことから、推進校での実践事例や授業補助教材等（文部科学省発行）の情報を指導者に広く周知し、無理なくがん教育が行える環境づくりを目指していく。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13人【内訳：がん専門医、予防医療専門医、医師会(学校医)、がん体験者、がん体験者支援団体代表、公立小学校教諭(保健体育免許保有)、公立中学校保健体育科教諭、県立高等学校保健体育科教諭、公立小学校養護教諭、県保健医療部健康推進課がん・循環器病対策推進室長、県教育庁義務教育課指導主事、県教育庁高校教育課指導主事、県教育庁保健体育課長】

2. 開催時期、検討内容

7月7日(金) 第1回がん教育推進協議会(令和5年度がん教育推進計画の検討) 出席者10名

1月31日(水) 第2回がん教育推進協議会(がん教育講演会実施報告、事業成果の検証) 出席者12名

② 教育委員会としての取組

1. がん教育に関する研修会

日時：11月17日(金) 茨城県教育研修センター 参集型

内容：中学校の教員及び外部講師に対し、がん教育について理解を深めるため、日本女子体育大学教授による講義、中学校の実践発表の研修を行った。

【参加人数：教職員230人、外部講師11人】

2. 児童生徒対象のがん教育講演会

小学校21校、中学校7校、高等学校4校、計32校の児童生徒を対象に、医師やがん体験者による講演を行い、がんそのものの理解やがん体験者に対する理解を深めた。

【小学校21校】

水戸市立上中妻小学校 水戸市立下大野小学校 笠間市立稲田小学校
小美玉市立小川南小学校 鹿嶋市立鹿島小学校 神栖市立やたべ土合小学校
つくば市立谷田部小学校 稲敷市立桜川小学校 稲敷市立高田小学校
取手市立取手西小学校 牛久市立向台小学校 かすみがうら市立霞ヶ浦南小学校
古河市立駒込小学校 古河市立小堤小学校 古河市立八俣小学校
古河市立古河第二小学校 下妻市立高道祖小学校 常総市立菅生小学校
常総市立飯沼小学校 桜川市立坂戸小学校 境町立猿島小学校

【中学校7校】

水戸市立見川中学校 日立市立豊浦中学校 常陸太田市立金砂郷中学校
神栖市立神栖第一中学校 石岡市立府中中学校 稲敷市立桜川中学校
つくば市立みどりの学園義務教育学校

【高等学校4校】

県立大子清流高等学校 県立小瀬高等学校 県立境高等学校
県立つくばサイエンス高等学校

3. がん教育教材の作成・配付

がん教育教材「知っていますか？がんのこと」の作成・配布をするとともにがん教育指導参考資料等を県内の先生方がダウンロードできるサイトに掲載し活用促進を図った。

【配付対象】小学6年生を対象に県版リーフレットを配付

【配信対象】小・中・高等学校へ(リーフレット、指導資料集、パワーポイント資料、ワークシート教材)

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

・県保健医療部と連携・協力し、がん拠点病院等への講師登録依頼を行うとともに、引き続き、学校への協力を依頼した。

- ・教材や指導参考資料に掲載しているデータ等について、県保健医療部の協力を得ながら修正を行った。
- ・がん教育講演会の講師については、医師の派遣を希望する学校には県内のがん拠点病院に協力を得て、がん体験者の派遣を希望する学校にはがん体験者団体に協力を得て、選定・派遣を行った。
- ・がん体験者団体主催の研修会に県保健体育課からがん教育担当者を派遣し、講演会実施に係る留意点等について共通理解を図った。

(2) モデル校における取組

小学校 21 校、中学校 7 校、高等学校 4 校、計 32 校において、各学校の計画に基づき、医師又はがん体験者を講師として派遣し、講演会を開催した。発達段階や学校の実情に応じて目標を設定し、科学的な根拠に基づいたがんについての正しい知識を身に付けるとともに、がん患者に対する正しい認識を深めることができた。

小学校においては、学級担任を中心に、6 学年体育科保健領域の病気の予防の授業と関連させて学級活動の中で取り扱ったり、県版のリーフレットに記載してある読み物資料を活用した特別の教科道徳として取り扱ったりするなど、がん教育の目標を達成できるよう教育活動全体を通して計画的に実施した。

中学校及び高等学校では、教科担当及び養護教諭を中心に保健の授業を核とし、発展的な学習として講演会を位置付けることで、より効果が高まるようにした。

《モデル校のテーマ例》

- ・がんとはどういうものかを知り、生きること・命の大切さと向き合う
(つくば市立谷田部小学校：講師 がん体験者)
- ・がんについて正しく理解し、将来の健康へつなげよう
(石岡市立府中中学校：講師 医師)
- ・生活の質 (QOL) を意識して、闘病しながらの社会生活を考えよう
(県立境高等学校：講師 がん体験者)

《講演会に利用した教育課程》

	体育・保健体育	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	その他	合計
小学校	0	1	1	19	0	21
中学校	4	0	2	0	1	7
高等学校等	1	1	1	1	0	4
合計	5	2	4	20	1	32

《講演会の様子》



＜少人数を活かした講演会＞



＜ワークシートを活用した講演会＞



＜学年参加による講演会＞

(3) その他 <外部講師活用の工夫>

- ・医師を講師とした講演会では、指導の充実を図るため、文部科学省作成のガイドラインや教材及び県保健体育課で作成したスライド等を提供し、適宜活用するよう働きかけた。
- ・がん体験者団体が主催する研修会において、県の担当者ががん教育に関する国や県の動向及び講演会に係る留意点等を含めた内容を伝達するなど、事前に十分な共通理解を図ることで、学校でのがん教育講演会の円滑な実施につながるように工夫した。

- ・外部講師登録をしている医療機関及びがん体験者団体に対し、県主催のがん教育指導者研修会の案内をし、参加を呼びかけた。
- ・講師の資質向上に向け、文部科学省主催の「外部講師活用研修会」、「がん教育シンポジウム」の開催を案内し、参加を呼びかけた。

2. 事業の達成度について

がん教育講演会実施校（小学校 21 校、中学校 7 校、高等学校 4 校、計 32 校）の児童生徒を対象に、講演会の事前及び事後にアンケートを行い、その比較により第 2 回がん教育推進協議会において事業の評価検証を行った。

(1) 児童生徒の事前・事後アンケート結果 <令和 5 年度>

[1) がんの学習について]

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。	[事前] [事後]
a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。」(そう思う) ……………	76%→87% (+11)
b 「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。」(そう思う) ……………	75%→85% (+10)

[2) 知識編]

※「正しい」、「誤り」から選択。	[事前] [事後]
a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」(正しい) ……………	92%→95% (+3)
b 「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」(正しい) ……………	96%→94% (-2)
c 「がんは日本人の死因の第 2 位である」(誤り) ……………	37%→60% (+23)
d 「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」(正しい) ……………	92%→94% (+2)
e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」(正しい) ……………	86%→92% (+6)
f 「体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい」(誤り) ……………	85%→86% (+1)
g 「がんの治療法には手術治療しかない」(誤り) ……………	72%→83% (+11)
h 「がんの痛みは我慢するしかない」(誤り) ……………	74%→78% (+4)

[3) 意識編]

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。	[事前] [事後]
a 「自分のがんにならないと思う」(思わない) ……………	32%→45% (+13)
b 「将来、たばこを吸わないでいようと思う」(そう思う) ……………	82%→83% (+1)
c 「日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」(そう思う) ……………	63%→71% (+8)
d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」(そう思う) …	61%→75% (+14)
e 「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」(思わない) ……………	20%→34% (+14)
f 「がんになっても生活の質を高めることができる」(そう思う) ……………	22%→39% (+17)
g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」(そう思う) ……………	71%→77% (+6)
h 「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」(そう思う) …	52%→64% (+12)
i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」(そう思う) ……………	89%→90% (+1)
j 「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」(そう思う) …	78%→80% (+2)

(2) がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

児童生徒は、がん教育講演会を実施したことにより、がん教育の必要性を感じるとともにがんに関する正しい知識を身に付けることができた。また、習得した知識をもとに健康や命の大切さについて主体的に考え、実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

<10ポイント以上効果が上がったアンケート項目>

- ・がん教育の必要性について〔1〕がんの学習について a、b〕
- ・がんに関する正しい知識〔2〕知識編 c、g〕
- ・がんの予防について（運動・食事・検診等）〔3〕意識編 a、d、e〕
- ・がん患者への認識〔3〕意識編 f、h〕

(3) 考察

○ 児童生徒へのアンケート結果から

事前と事後のアンケート結果を比較すると、ほとんどの回答でプラスになっている。特に大きく伸びた項目としては、「がんは日本人の死因の第2位である（誤り）」、「がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）」、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）」が挙げられる。児童生徒のがんに関する正しい知識は定着しつつあると考えられる。

また、児童生徒の感想には「早期発見ならば、がんは治ると聞き、自分もがん検診を受けられる年齢になったら、すすんで定期受診するようにしたいと思う。」、「がん教育で学んだことを家族に話したい」、「がんになった人を助けたい」といった内容のものもみられ、自分だけではなく、周囲のことも考えられるようになったことが窺える。がん教育講演会を通して、「健康のありがたさ」や「命の大切さ」について学ぶことができたり、がんの正しい知識や予防についてより深く学習したりすることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ① 講師に対し、茨城県がん体験談スピーカーバンク、各病院等と連携・協力しながら、文部科学省や県教育委員会主催の研修会の案内を周知し、受講者を増やすことで、講師の資質向上を図る。
- ② がん体験者講師の資質向上に向け、がん体験者の勉強会に県教育委員会担当者が参加する取組を今後も継続していく。
- ③ がん教育講演会を開催するに当たり、教育委員会や県立学校と連携し、周囲の学校へも開催の周知をするなど、他校の教員による講演会への参加を促し、その教育的効果を啓発していく。
- ④ 高等学校におけるがん教育講演会の開催校が増えるよう、各高等学校に促していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ① 県が作成する教材について
 - ・毎年度、県版リーフレット等の時点修正を実施
 - ・授業等でいつでも活用することができる県版リーフレット等の配信
 - ・各学校における授業での活用への周知
- ② 学校におけるがん教育の実施について
 - ・発達段階や学校の実態に応じた小学校におけるがん教育の推進と、中学校・高等学校の保健体育科での確実な実施
 - ・高等学校におけるがん教育講演会実施率の向上

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

14名【内訳：大学教授2名(医学系研究科1名、保健医療学部1名)、大学附属病院長1名、学校医2名(小児科、内科医)、学校歯科医1名、学校薬剤師1名、がん患者団体連絡協議会1名、PTA連合会1名、高等学校PTA連合会1名、県看護協会1名、県立がんセンター医師1名、保健所長1名、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課主監1名】

2. 内容

事業を推進するに当たって中核をなす組織で、がん教育の推進を図るために作成する「がん教育に関する計画」に対し、指導、助言を行うとともに、進め方等について検討。また、実践授業を参観し、事業の成果の検証等を行う。

3. 開催時期、検討内容

期 日	場 所	内 容
10月4日(水) 19:00~20:30	群馬県庁 281 会議室	・がん教育に関する計画、教材、内容や進め方について ・がん教育推進のための外部講師整備体制等について
2月1日(木) 19:00~20:30	群馬県庁 281 会議室	・今年度の取組及び来年度の計画について ・各学校での取組の推進について ・今後のがん教育の内容や進め方について

② 検討委員会について

1. 構成員

15名【内訳：大学准教授1名(大学院保健学研究科)、教員3名(小学校1名、中学校1名、高等学校1名)、養護教諭3名(小学校1名、中学校1名、高等学校1名)、指導主事7名(県内各教育事務所及び市教育委員会事務局)、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課主任1名】

2. 内容

実践推進校において、がん教育を具体的に展開するための計画及び持続可能な実践内容等を検討。

3. 開催時期、検討内容

期 日	場 所	内 容
10月24日(火) 15:00~16:00	沼田市立薄根小学校 図書館	・薄根小学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・がん教育を推進する上での課題及び外部講師の活用
11月27日(月) 15:10~16:10	沼田市立薄根中学校 会議室	・薄根中学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・今後の予定や方向性、指導者研修会等の持ち方
12月21日(木) 13:50~14:50	群馬県立沼田女子高等学 校 会議室	・沼田女子高校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・小中高での系統性を踏まえた学習の課題

③ 教育委員会としての取組

6月	<ol style="list-style-type: none"> 1 関係機関と打合せ 2 がん教育に関する指導者研修会 6月30日(金) オンライン開催(総合教育センター) <ol style="list-style-type: none"> ① 講義 「がん教育の考え方・進め方」 講師 新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科 杉崎 弘周 教授 ② 実践発表 「令和4年度がん教育の実践について」 発表者①前橋市立大胡小学校 齋藤 誠 教諭 発表者②前橋市立大胡中学校 澁澤 寛 教諭 発表者③県立前橋東高等学校 佐藤 貴浩 教諭
8月	<ol style="list-style-type: none"> 1 実践校事前アンケート実施及び集計 2 関係機関と打合せ、協議会及び検討委員会等開催準備 3 組織づくり(協議会) 4 文部科学省主催 8月21日(月)～31日(木) YouTube にとる動画配信 がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」について 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知
9月	<ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師選定、派遣申請(薄根小学校・薄根中学校) 2 「がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧(以下、「相談窓口一覧」という。)」の更新
10月	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1回協議会開催 10月4日(水) 群馬県庁 281 会議室 2 実践校打合せ等(指導案及び教材等検討) 沼田市立薄根中学校 3 授業実践、第1回検討委員会開催(沼田市立薄根中学校)
11月	<ol style="list-style-type: none"> 1 実践校打合せ等(指導案及び教材等検討) 沼田市立薄根小学校及び県立沼田女子高等学校 2 外部講師選定、派遣申請(沼田女子高等学校) 3 実践校講演会(沼田市立薄根小学校) 4 授業実践、第2回検討委員会開催(沼田市立薄根小学校)
12月	<ol style="list-style-type: none"> 1 実践校講演会(県立沼田女子高等学校) 2 授業実践、第3回検討委員会開催(県立沼田女子高等学校)
1月	<ol style="list-style-type: none"> 1 実践校事後アンケート実施及び集計 2 まとめ及び協議会資料作成
2月	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2回協議会開催 2月1日(水) 群馬県庁 281 会議室 2 文部科学省主催 がん教育シンポジウム 2月1日(水) 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知 3 実践校講演会(沼田市立薄根小学校)
3月	<ol style="list-style-type: none"> 1 群馬県学校保健審議会 3月6日(水) 群馬県庁 281 会議室

④ 保健部局や地域の専門機関等との連携

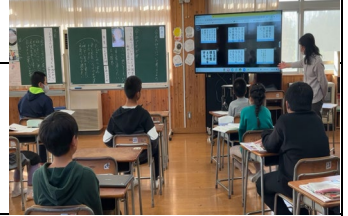
健康福祉部感染症・がん疾病対策課と連携し、がん診療連携拠点病院、群馬県がん診療連携推進病院、小児がん連携病院の協力のもと、令和5年度「相談窓口一覧」の内容を確認し更新した。学校が外部講師としてがん経験者を依頼したい場合は、健康福祉部感染症・がん疾病対策課が窓口となっている。また、群馬県版「がん教育の手引き」と共に、外部講師派遣実施要項及び各種様式、相談窓口一覧を県総合教育センターのホームページに掲載し、学校が活用しやすいようにしている。



(2) モデル校における取組

①沼田市立薄根小学校 第6学年

時期	時間	内容
11月12日	学級活動	○講演会 講師：群馬大学 情報学部 准教授 片山 佳代子 先生 演題：「がんについて学ぼう」 ○がんは身近な病気であること、早期発見の重要性、現在の治療法等、がんについての基本的な知識を理解する内容で講演を実施。
11月27日	道徳	○生命の尊さ「自他の生命を尊重し、力強く生きていこうとする心情を高める」自分のためにできることを主体的に考え、命の大切さについて理解する。
2月9日	学級活動	○講演会 講師：神奈川県がん患者団体連合会 阿蘇 敏之 先生 演題：「がんについて知ろう」 ○自身の経験を踏まえ、がんの知識だけでなく、家族が笑顔で支えてくれたことや自分でできないことは誰かの手を借りればよいことなど、「少しの勇気が大きな笑顔」になることを伝える。



②沼田市立薄根中学校 第2学年

時期	時間	内容
9月20日	学級活動	○講演会 講師：沼田病院 医師 岩波 弘太郎 先生 演題：「がんという病気」 ～健康と命の大切さ～ ○自己の生活やがんに対する考え方について振り返るとともに、がんに対する偏見をなくし、今後の生活について考える。
10月24日	学級活動	○「自分自身の生活を振り返り、どのようにしたら今後の生活をより良くすることができるか考える。今後の改善点や個人の目標を定め、今の生活が将来のがん予防に繋がってくることを学んでいた。



③群馬県立沼田女子高等学校 第1学年

時期	時間	内容
12月15日	LHR	○講演会 講師：利根中央病院 緩和ケア認定看護師 鈴木 真紀子 先生 演題：「最期まで目一杯生きる」 ○緩和ケア専門医の講話を通して、がん患者の思いを知ることで、共生や患者への寄り添い方について考え、今後の学習に生かす。
12月15日	保健	○単元名：「がんの原因と予防・がんの治療と回復」 ○自分が「がん」に罹患したとき、「大切にしたいこと」について考える。また、「がん」に罹患した人の「大切にしたいこと」にどのように「寄り添う」ことができるか考える。



2. 事業の達成度について

○ モデル校の取組における発達段階に応じた継続的ながん教育の充実について

各学校の課題や実情を考慮した授業実践を行うことで、下記のアンケート結果から見えるように、生徒の意識の変化が大きく、がん患者に対する理解及びがんとの共生に関する項目等、高等学校のがん教育に関する内容について、生徒の理解が向上した成果を得ることができた。

【生徒の授業前後のアンケート結果】	(前)	(後)
・ がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	80.1%	→ 90.2%
・ がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	76.5%	→ 87.1%
・ 早期発見すれば、がんは治りやすい。	89.8%	→ 96.4%
・ 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	56.1%	→ 64.9%
・ がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	56.1%	→ 68.6%
・ がんになっても生活の質を高めることができる。	16.3%	→ 29.4%
・ がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	42.9%	→ 54.1%

○ 教員や外部講師の資質向上を目的とした教育研修会の実施について

学習指導要領の内容、がん教育の指導のポイントや留意事項、外部講師の活用等について研修を行った。指導内容や外部講師の活用効果等について事例等を踏まえ具体的に伝えることで、教員のがんに対する理解の向上及びがん教育を行うことに対する意識の啓発につなげることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（課題）

- ・ 小、中学校の連携及び高等学校へつなげるための系統性を意識した学習指導の工夫を明確にすること。
- ・ 研修会を通して、指導主事、教職員などへ具体的な取組を示し、教科横断的な学習の啓発を行うこと。
（令和6年度の取組について）
- ・ 「がん教育外部講師連携支援事業」を活用し、がん教育の啓発を行っていく。
- ・ ホームページ掲載の群馬県版「がん教育の手引き」、「がん教育に係る外部講師派遣」実施要項及び各種様式、「相談窓口一覧」について、がん診療拠点病院に周知、確認依頼を行い、「相談窓口一覧」については年度更新し、希望する学校が活用しやすい体制を整えておく。
- ・ 群馬県版「がん教育の手引き」等を指導者研修会で周知し、各学校での取組の充実に繋がるようにする。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 学校におけるがん教育の授業実践にあたり、効果的にがん教育を進めていくためには、指導にあたる教員の指導力向上及びがんに対するより一層の理解を進めていく必要がある。県教育委員会で作成した群馬県版「がん教育の手引き」の活用方法を周知していくことで、各学校の授業計画の参考となると考えることから、研修会等を通じて周知していく。また、がんは、国民の2人に1人がり患する現状から、生徒やその家族が、がん直面している可能性等を踏まえ、がん教育実施における留意事項等について、改めて実践事例を用いながら理解を深めていく必要がある。
- ・ 「がん教育に係る外部講師派遣」実施要項及び各種様式と「相談窓口一覧」の周知を行い、学校の実態に合わせて、外部講師を活用した学習指導（講演会等）が行えるようにする。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で24人（内訳：大学准教授1人、医師会（内科・リハビリテーション科）1人、がん専門医1人、がん経験者1人、病院薬剤師会1人、校長3人、市町村教育委員会指導主事2人、教諭4人、養護教諭4人、県保健医療部1人、県教育局5人） ※県教育局は事務局4人を含む

委員のうち学校関係者については、原則として各団体等からの推薦によるものとし、「校長会（小・中・高）」「学校体育連盟等（小・中・高）」「養護教諭会」と連携した。また、「医師会」「病院薬剤師会」「保健医療部疾病対策課」と連携した。

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回協議会 令和5年7月11日（火）（がん教育推進計画の検討・決定）
- ・第2回協議会 令和6年1月12日（金）（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（公立学校の教職員・教育委員会の担当者・外部講師関係者等を対象）

教職員及び外部講師関係者等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として開催した。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、授業実践者（小・中・高）による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師関係者等の資質向上を図った。

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

- ・小学校授業研究会 特別活動（会場：熊谷市立太田小学校）
- ・中学校授業研究会 保健体育科（保健分野）（会場：越生町立越生中学校）
- ・高等学校授業研究会 保健体育科（科目保健）（会場：県立吹上秋桜高等学校）

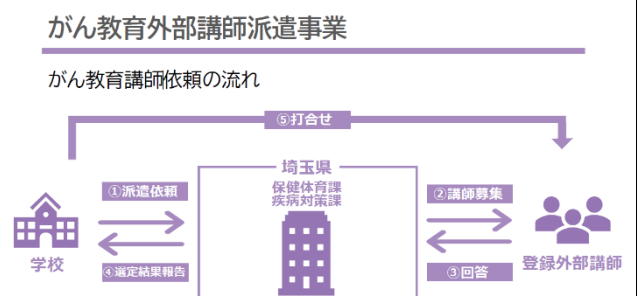
○実施報告書の作成及び配付による普及

指導者研修会の資料や実践授業の学習指導案等を掲載した実施報告書を作成した。報告書は学校等に送付するとともに、県のホームページにも掲載し、学校におけるがん教育の推進に向けて活用を依頼した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○保健医療部疾病対策課と連携した「がん教育外部講師派遣事業」の実施

「がん教育外部講師派遣事業（疾病対策課事業）」及び「がん教育外部講師派遣事業」について、各学校へ周知した。外部講師の活用を希望する学校からの依頼申請を受け、県の登録外部講師から条件（講師種別・指導内容・日時・謝金等）に合致する外部講師を疾病対策課が選定し、保健体育課と連携して該当校へ通知した。



○保健医療部疾病対策課と連携した「外部講師研修会」の開催

学習指導要領におけるがん教育の位置付け、授業の際の留意事項及び効果的な進め方等の講義、埼玉県がん教育登録外部講師（医療従事者、がん経験者）による学校現場での体験の共有、質疑等を通じて、がん教育登録外部講師を養成することを目的として、外部講師関係者を対象にオンラインで開催した。事前に参加者からの質問を受け付け、外部講師経験豊富な講師から明確で的確な回答（助言）をいただくなど、開催方法を工夫したことで、充実した研修会となった。

(2) モデル校における取組

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

【小学校授業研究会】

体育科（保健領域）、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動の教科等横断的な視点で学校の教育活動全体でがん教育に取り組み、授業研究会では、学級活動（2）において、がんを予防するための食生活について考えることを題材に、多種多様な教材を使用した実践を行った。公開授業後には、がん教育の充実を図るための工夫について研究協議を実施した。また、事後学習として、埼玉医科大学総合医療センターの儀賀理暁教授による指導を行った。

(1) 日 時 令和5年11月16日（木）

(2) 参加者 小学校・中学校の教職員、指導主事、外部講師関係者、大学生、授業検討部会員等 等

(3) 会 場 熊谷市立太田小学校

(4) 授業者 八木 孝大 教諭

(5) 題 材 特別活動「健康な生活とかけがえない命」

学級活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

(6) 参加人数 76名



バイキング方式で自分の1食分を選ぶ様子



交流しながら食生活とがん発生のリスクについて考える様子



野菜の摂取量について実物で視覚的に捉える様子

【中学校授業研究会】

学習指導要領に対応した保健体育科（保健分野）の授業で、がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを振り返り、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための知識を生徒たちが身に付ける様子を公開した。公開授業当日に、外部講師（埼玉医科大学国際医療センターの黒崎亮准教授）による指導を公開し、前時までの学習で生徒たちが行ったグループワークの結果などに対する助言も外部講師からいただくなど、参加者にとって、外部講師と連携した授業を実際に見ることができ貴重な機会となった。公開授業後には、がん教育の充実を図るための工夫について研究協議を実施した。

- (1) 日 時 令和5年11月1日(水)
- (2) 参加者 小学校・中学校の教職員、指導主事、外部講師関係者、大学生、授業検討部会員 等
- (3) 会 場 越生町立越生中学校
- (4) 授業者 高橋 寿弥 教諭
- (5) 単 元 保健体育科(保健分野)第2学年「(1)健康な生活と疾病の予防」
(ウ)生活習慣病などの予防
- (6) 参加人数 45名



外部講師が指導する前に、配慮事項を伝えている様子



生徒たちが前時までの学習でまとめたものに対する助言の様子



生徒と外部講師、授業者による意見交換・質疑の様子

【高等学校授業研究会】

本採用から3年以内の教職員の積極的な参加について周知した。学習指導要領に対応した保健体育科(科目保健)の単元でがんについて学習したうえで、生涯を通じる健康の単元においても、既習事項を生かしながら、生徒が調べたことをプレゼンテーションし、がんと付き合いながら健康的な生涯を送ることについて考える授業を公開した。公開授業後には、がん教育の充実を図るための工夫について研究協議を実施した。

また、事後学習として、がんサバイバー(NPO法人くまがやピンクリボンの会の栗原和江代表理事)から体験談を聞く取組を実施した。

- (1) 日 時 令和5年10月27日(金)
- (2) 参加者 中学校・高等学校・特別支援学校の教職員、指導主事、外部講師関係者、授業検討部会員 等
- (3) 会 場 県立吹上秋桜高等学校
- (4) 授業者 藤井 将貴 教諭
- (5) 単 元 保健体育科(科目保健)第2学年「(3)生涯を通じる健康」
(ア)生涯の各段階における健康
- (6) 参加人数 25名



グループごとにテーマを決め、調べたことをプレゼンテーション



文部科学省のスライド教材を使って、授業者が補足説明



がんと付き合いながら健康的な生涯を送るための自分の考えをまとめる様子

2. 事業の達成度について

(1) 「がん教育」指導者研修会

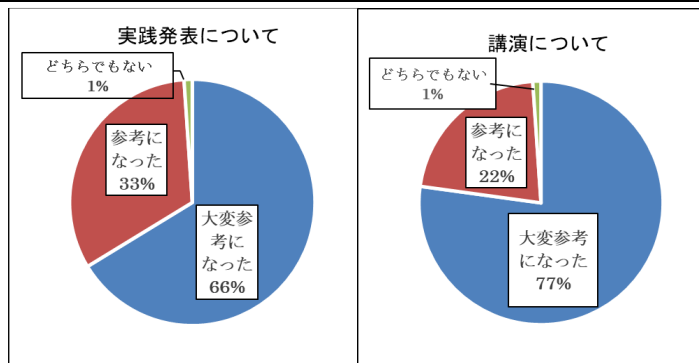
ア がん教育に携わる教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 行政説明において、学校におけるがん教育の

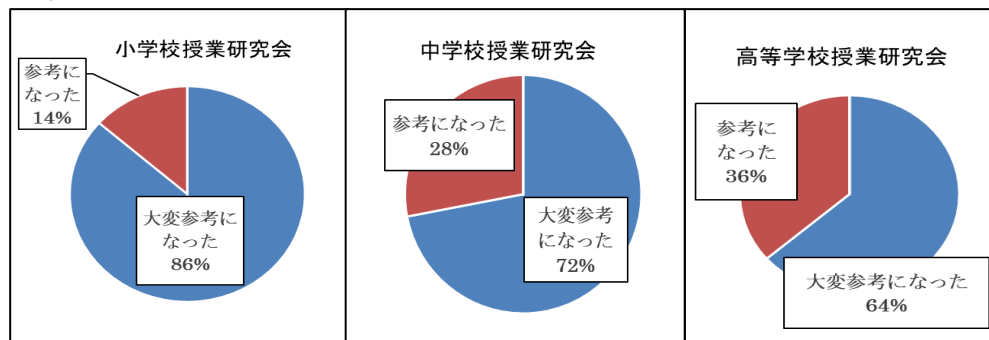
定義や目標、及び外部講師と連携したがん教育の在り方や、配慮事項等について改めて確認するなど、学校におけるがん教育の方向性を示すことができた。また、県立久喜図書館から、図書館を活用したがん情報の入手方法について案内するなど有意義な情報を提供した。

ウ 実践発表において、昨年度のモデル校の授業者から、がん教育を通じて目指す子供の姿、授業づくりに向けた思い、実践までに生じた葛藤など、具体的な話を通じて、効果的な指導について普及啓発ができた。また、発達段階に応じた系統的な指導についての理解が進んだ。

エ 横浜国立大学教授 物部 博文 氏による講演「学校におけるがん教育の推進～学習指導要領の考え方を踏まえて～」により、新学習指導要領に基づくがん教育をはじめとする保健教育の効果的な指導方法など授業づくりの考え方、進め方について理解を深めることができた。



(2) 授業研究会について



ア 授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導、及び教科等横断的な取組、外部講師と連携した取組などについて検討を重ね、授業研究会では、主体的・対話的で深い学びの視点による効果的な指導方法（学習活動）について、提案することができた。また、充実した研究協議を行うことができた。

イ 小・中・高のモデル校全てにおいて、がん専門医や地域の医療機関の医師、NPO 法人などの外部講師と連携した指導を実施することにより、効果的ながん教育を実施することができた。

ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。

エ 小学校のモデル校では、体育科・道徳科・総合的な学習の時間、特別活動の教科等横断的な取組を実施した。公開授業では、特別活動の学級活動（2）において、「食事」と「食生活」の違いについて児童が理解し、がんを予防するための健康な食生活について考えることができた。また、NPO 法人くまがやピンクリボンの会と連携した「いのちの授業」を実施したり、授業研究会の実施後に、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）による事後指導を実施したりするなど、外部講師を積極的に活用した研究を推進することができた。

オ 中学校のモデル校では、保健体育科保健分野において学習した既習事項を活用して、事前にグループワークでテーマごとに調べ学習を行い、公開授業当日には、お招きした黒崎医師（埼玉医科大学国際医療センター）から、生徒たちのグループワークの内容にも関連させた「いのちとがんのお話」の講義をしていただい

た。生徒たちからの質問も多くあり、生徒たちは、がんを予防するための望ましい生活習慣や検診の必要性、治療法等について理解を深めていた。また、外部講師が授業に参画している様子を参観者も見ることができ、効果的な外部講師の活用方法について、研究協議でも様々な意見が交わされた。

カ 高等学校のモデル校では、保健体育科科目保健の授業を実施した。既習事項に加え、各班で調べた内容をプレゼンテーションソフトにまとめて、発表し合った。各班の発表後には、授業者が既習事項の資料や文部科学省の教材資料等を活用して、補足したことで、深い学びにつなげていた。また、授業研究会の実施後には、NPO 法人くまがやピンクリボンの会代表理事の栗原氏等による事後指導を行ったことで、生徒たちのがんに関する関心をさらに高めることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

ア 授業研究会に関連した指導として、小・中・高の全てのモデル校で外部講師と連携した取組を実施することができ、児童生徒の心に響く効果的ながん教育を推進することができた。

イ 保健医療部疾病対策課と連携した外部講師活用のための取組である「外部講師派遣事業」では、申込のあった県内小・中・高等学校に講師を派遣することができた。(40校)

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア 学習指導要領に対応したがん教育の効果的な実施について引き続き周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。

イ がん教育の目標を達成するためには、保健の授業でがんに対する正しい知識を身に付け、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくことが必要である。体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していく。

(2) 外部講師の活用について

ア 各学校からの依頼を受け、県保健医療部疾病対策課と連携して講師の紹介を行うなど、外部講師を学校に派遣できる体制づくりを進めている。今後は、外部講師リストの整理などを進め、各学校が直接がん診療連携拠点病院等と連携して、がん教育を推進していく体制への移行を進めていく。

イ 外部講師の育成や資質向上のため、学校教職員が多く参加する「がん教育指導者研修会」に外部講師関係者の参加も促していく。

ウ がん教育授業研究会のモデル校に、外部講師を積極的に活用した授業研究を促していく。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる学習指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ 効果的ながん教育の手立ての一つとして、外部講師と連携した取組についての普及啓発も一層推進していく。

ウ 県内各学校でがん教育の取組を実践していくために、地区のバランスを考慮したモデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。
- ・外部講師を活用した実際の授業がどのようなものなのか、モデル校以外の学校にも広く知ってもらうために、例えば、外部講師が行う指導の授業動画を限定公開したり、指導者研修会において配信したりしていく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 14名

内訳

氏名	所属及び役職
片山 佳代子	群馬大学情報学部情報学科 准教授 神奈川県立がんセンター臨床研究所がん教育ユニット ユニット長
助友 裕子	日本女子体育大学体育学部 スポーツ健康学科教授
佐々木 治一郎	北里大学医学部新世紀開発センター 横断的医療領域開発部門 臨床腫瘍学 専門医
長谷川 一男	神奈川県がん患者団体連合会理事
田川 尚登	NPO 法人 横浜こどもホスピスプロジェクト代表理事
藤倉 寿則	公益社団法人神奈川県医師会理事
渡邊 知雄	公益社団法人神奈川県医師会理事
蛭田 昌	神奈川県PTA協議会 執行役員
金子 雄志	神奈川県中学校体育連盟会 研究部会 部会長
水谷 めぐみ	神奈川県学校保健連合会 養護教諭部会部会長
山田 ふみ子	神奈川県福祉子どもみらい局 子どもみらい部私学振興課長
長田 裕一郎	神奈川県教育委員会教育局 支援部子ども教育支援課長
下山田 義行	神奈川県健康医療局 保健医療部がん・疾病対策課長
磯貝 靖子	神奈川県教育委員会教育局 指導部保健体育課長

事務局：神奈川県教育局指導部保健体育課

連携部局：神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

2. 開催時期、検討内容

第1回神奈川県がん教育協議会 オンライン開催6月26日(月)

(1) 報告事項

ア 令和4年度がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告について

(2) 協議事項

ア 令和5年度がん教育等外部講師連携支援事業 事業計画について

イ 令和5年度神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について

- ウ 令和5年度がん教育授業に係る実施校募集要項について
 - エ がん教育動画教材の追加について
 - オ 令和5年度外部講師リスト
 - カ 指導用補助資料について
 - キ 令和5年度医療関係者向け指導者研修について
- (3) その他

第2回神奈川県がん教育協議会 オンライン開催 1月30日(火)

(1) 報告事項

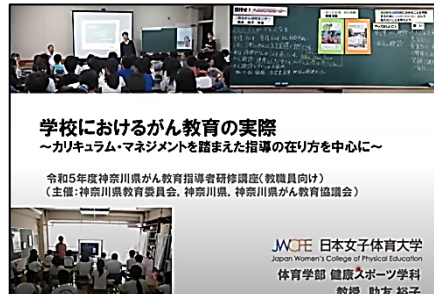
- ア 令和5年度神奈川県がん教育の取組について
- ・ 文部科学省がん教育等外部講師連携支援事業報告
 - ・ がん教育研修講座開催要項
 - ・ がん教育研修講座アンケート結果
 - ・ 外部講師を活用した公開授業
 - ・ がん教育総合支援事業評価アンケート
 - ・ 医療関係者向けがん教育研修
 - ・ 外部講師リスト

(2) 協議事項

- ア 令和6年度がん教育の取組について
- ・ 事業計画

② 教育委員会としての取組

- がん教育協議会の開催 6月26日(月)、1月30日(火)
- がん教育指導者研修講座(主に教職員向け)のオンライン開催
 - ・ 7月21日(金)から8月31日(木)
 - 参加人数 426名
(小学校23名、中学校102名、高等学校215名、
養護教諭47名、医療関係者23名、その他16名)
- 学校教職員及び外部講師研修(医療関係者向け、がん経験者向け)の体制を構築
- 各種教材の内容検討
- 各種会議等でがん教育の必要性や研究授業の実施について説明



③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課との連携
 - ・ 外部講師派遣での講師調整
 - ・ がん教育教材(指導用補助資料、スライド教材)の作成
 - ・ がん教育指導者研修(医療関係者向け)オンライン開催
- ※教育委員会、民間製薬会社共催
- 10月23日(月) 参加人数 41名
- 11月14日(火) 参加人数 32名

**神奈川がん教育外部講師育成
WEBセミナー**

日 時: 2023年 10月23日(月) 18:30~19:45
2023年 11月14日(火) 18:30~19:45
*同一内容で開催しますので、ご都合の良い日曜にご参加ください。

開催形式: WEB開催 (ZOOMによる配信)

座長 / オープニング 18:30~18:40
神奈川立がんセンター臨床研究所 がん教育ユニット・ユニット長
神奈川県がん教育協議会 座長
片山 佳代子 先生

講演 1 18:40~18:55
『神奈川県のがん教育の取り組み』
演者 神奈川県教育局指導部保健体育課 (神奈川県教育委員会)
佐藤 栄嗣 先生

講演 2 18:55~19:45
『がん教育ガイドラインに基づく外部講師の準備と実践』
演者 北里大学医学部新世紀医療開発センター
横断的医療領域開発部門 臨床腫瘍学 教授
佐々木 治一郎 先生

*ご参考: 神奈川がん教育ガイドライン(令和5年3月)

共催: 神奈川県/神奈川県教育委員会/
中外製薬株式会社/武田薬品工業株式会社

(2) 研究授業における取組

○外部講師を活用したがん教育公開授業の実施 (30校)

学校名	実施日	教科	外部講師種別
・神奈川県立平塚工科高等学校	6月19日(月)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・藤沢市立第一中学校	7月10日(月)	道徳	がん経験者
・神奈川県立上溝高等学校	7月11日(火)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・神奈川県立七里ガ浜高等学校	7月13日(木)	保健体育(科目保健)	医師
・神奈川県立横浜緑園高等学校	7月18日(火)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・神奈川県立横浜清陵高等学校	7月18日(火)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・神奈川県立深沢高等学校	9月14日(火)	総合的な探究の時間	がん経験者
・小田原市立城山中学校	9月28日(木)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・横浜市立大正中学校	10月5日(木)	道徳	がん経験者
・藤沢市立湘洋中学校	10月16日(月)	道徳	がん経験者
・秦野市立南中学校	10月19日(木)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・神奈川県立鶴見高等学校	10月23日(月)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・横須賀市立久里浜中学校	10月26日(木)	保健体育(保健分野)	医師
・相模原市立弥栄中学校	10月30日(月)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・横浜市立南希望が丘中学校	10月31日(火)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・横浜市立あざみ野中学校	10月31日(火)	総合的な学習の時間	がん経験者
・横須賀市立追浜中学校	11月13日(月)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・大和市立上和田中学校	11月13日(月)	保健体育(保健分野)	医師
・川崎市立川中島中学校	11月15日(水)	道徳	がん経験者
・厚木市立相川中学校	11月16日(木)	道徳	がん経験者
・横浜市立鶴ヶ峯中学校	11月27日(月)	学級活動	がん経験者
・横浜市立本郷小学校	11月29日(水)	体育(保健領域)	医師及びがん経験者
・秦野市立西中学校	12月1日(金)	保健体育(保健分野)	がん経験者
・鎌倉市立富士塚小学校	12月7日(木)	体育(保健領域)	医師
・横須賀市立北下浦小学校	12月8日(金)	体育(保健領域)	医師
・神奈川県立横浜旭陵高等学校	12月13日(水)	保健体育(科目保健)	がん経験者
・厚木市立妻田小学校	12月15日(金)	体育(保健領域)	がん経験者
・厚木市立藤塚中学校	令和6年1月26日(金)	保健体育(保健分野)	医師
・神奈川県立津久井高等学校	令和6年1月29日(月)	福祉科	看護師
・厚木市立東名中学校	令和6年2月9日(金)	道徳	医師



2. 事業の達成度について

1 がん教育協議会の開催

- ・神奈川県でのがん教育の現状について関連部署等と共有し、国の最新の動向や先進事例等を把握するとともに課題を明確にし、県の取組に活かした。

2 がん教育指導者研修講座(教員向け)の開催

- ・有識者の講義に加え実際の授業動画を配信することで、がん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を高められた。また、外部講師活用についてその意義を理解できた。
- ・県立高等学校の保健体育科教諭を悉皆参加としている。

3 がん教育指導者研修講座(医療関係者向け)の共催

- ・医療関係者が、がん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を理解した。
- ・新たな外部講師登録者数の増加に繋がった。
- ・関係機関(他部局や民間製薬会社)との連携を深めた。

※1 神奈川県がん教育ガイドライン

4 神奈川県がん教育ガイドライン※1の周知

- ・外部講師活用率の向上に繋がった。
- ・民間企業との連携により、オンラインにて全国の医療関係者に周知した。



5 神奈川がん教育動画教材※2の周知

- ・がん教育授業の質の向上と外部講師活用率の向上に繋がった。

※2 がん教育動画教材(例:神奈川県立がんセンター)

6 外部講師を活用したがん教育公開授業の実施

- ・研究授業の実施校数を大幅に増やした。
- ・各市町村関連部署の理解を深められた。
- ・外部講師等の活用方法や、授業での実施内容、方法について、授業後の研究協議にて課題を共有することができた。



7 各種の会議等でがん教育の必要性・研究授業の実施について説明

3. 今後の課題及びその取組の方向性(今回の事業により新たに見えた課題など)

1 持続可能ながん教育指導者研修体制の確立

- ・学校教職員研修と外部講師向け(医療関係者研修、がん経験者)研修の計3本について、今後も持続して実施できるよう他部局、民間企業との連携や県予算の確保等を検討していく。

2 がん教育関係教科のがん教育への関わりの推進

- ・保健体育科以外のがん教育に関わる教科・科目において学習を深め、関連できるよう公開授業等で先進的な取組を行っていく。

3 外部講師を活用したがん教育授業の推進

- ・公開授業実施校数をさらに増やしていく。

- ・県がん教育ガイドラインを周知し、学校主体で外部講師の派遣調整ができるよう支援していく。

4 外部講師の発掘・育成

- ・引き続き外部講師研修等を通じて、新たな外部講師をリスト化し育成していく。

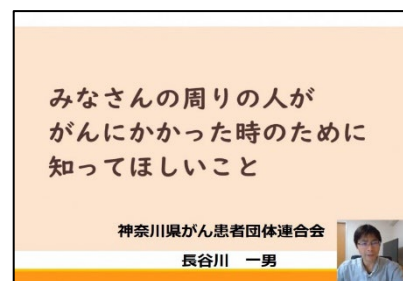
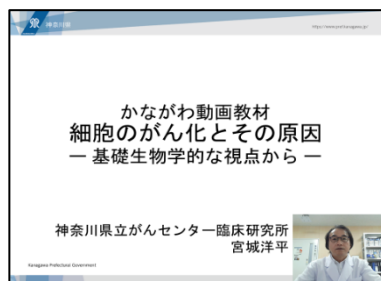
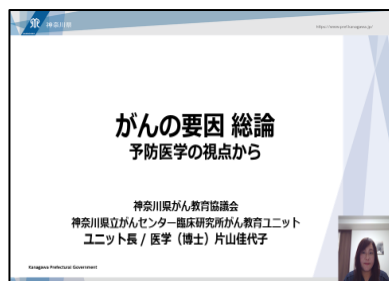
5 外部講師の完全オンライン授業（ライブ配信）の推進

- ・外部講師活用の教育間格差の是正、医師の働き方改革

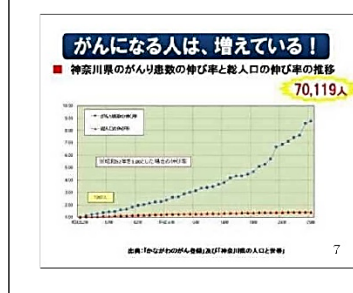
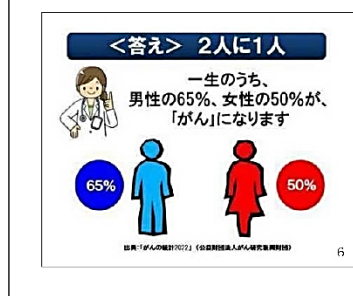
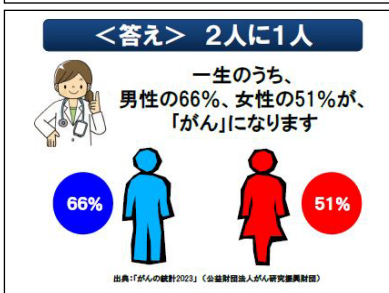
4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○がん教育教材の積極的な活用を推進する。

- ・神奈川がん教育動画教材



- ・スライド教材、指導用補助資料



◇スライドの趣旨
がんは、誰にでもなる可能性があることを知る。

- 指導のポイント
 - ①がんになる人は 40 才頃から少しずつ増えていき、高齢になればなるほど、がんになる可能性が高くなる。
 - ②がんになる人は、年々増え続けている。
- 指導上の注意
がんは「なる」確率であり、がんが「亡くなる」確率ではない。

○スライドの解説
高齢になればなるほど、がんと診断される可能性が高くなる。「がんの統計 2021」によると、死ぬまでに、男性の 65.0%、女性の 50.2%ががんと診断される。
なお、39 才までがんと診断される確率は、男性で 1.2%、女性で 2.3%だが、49 才までだと、男性で 2.8%、女性では 6.2%となり、年齢を言われるごとに少しずつ高くなっていく。
神奈川県では.....
がんと診断された男性のうち 98.8%、女性のうち 94.9%が 40 才以上である。

○スライドの解説
神奈川県で、がんと診断された人の数は、平成 30 年には 70,119 人(男性 39,588 人、女性 30,531 人)になる。平成 29 年と比較すると、421 人(男性 337 人、女性 84 人)増加している。また、昭和 52 年と比較すると、約 8.8 倍となっており、増加の一途をたどっている。

(2) モデル校における取組

南砺市立福野小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 体育科保健領域
- 実施日 令和5年10月20日(金)
- 授業内容 がんの発見から治療までの経緯や家族の思い等、外部講師の体験談を聞き、自他の健康や命の大切について考える。(がんを宣告されたとき、経験したがん治療について、がんを体験して)

入善町立桃李小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 特別な教科 道徳の時間
- 実施日 令和5年11月16日(木)
- 授業内容 がんについて正しく理解し、自他の健康や命の大切さ、生きることについて主体的に考える。(2時間構成)
 - 1 時間目 養護助教諭による保健授業…文部科学省選定がん教育アニメ教材「よくわかる！がんの授業」を使用し、がんについての基本的内容を学ぶ。
 - 2 時間目 (本時) 外部講師による出前授業…講師の体験談を聞き、自他の健康や命の大切について考える。(がんとともに歩んだ日々、後悔していること(検診の大切さ)、がん経験から得られたこと(周囲の支え、今という時間、生きること、日常の幸せ))

小矢部市立石動小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 体育科保健領域
- 実施日 令和5年11月21日(火)
- 授業内容 がんについて正しく理解し、自他の健康や命の大切さについて考える。(2時間構成)
 - 1 時間目 体育科保健の授業…教科書を用い、単元「病気の予防」内で、がんについて学ぶ。
 - 2 時間目 (本時) 外部講師による出前授業…がん早期発見の大切さ等について、実体験に基づいた講師の話を聞く。(講師の紹介(講師によるピアノ演奏)、病気の発見と治療、その後の回復、現在の生活、がんとがん検診について)

富山市立上滝小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 体育科保健領域
- 実施日 令和5年12月5日(火)
- 授業内容 外部講師から、がん治療の様子や家族の支え等、体験を踏まえた話を聞く。(がんと診断されてから、がんを家族に伝えるときの思い、手術や抗がん剤等の治療、がんという病気、早期発見・早期治療の大切さ、人との出会い・繋がり、一人一人の存在の大切さ)

滑川市立田中小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 体育科保健領域
- 実施日 令和5年12月12日(火)
- 授業内容 がんに関する基礎知識のクイズを交えた外部講師の話を通して、がんや生活習慣病の予防のために望ましい生活習慣を身に付けていくことやがん検診による早期発見や早期治療の必要性について学ぶ。(がんの発症率、がん検診や精密検査、がん治療、がん罹患による心情の変化、がんと生活習慣、命の大切さと感謝の心)

高岡市立南条小学校

- 教育課程上の位置付け 6 学年 体育科保健領域
- 実施日 令和5年12月15日(金)
- 授業内容 外部講師の体験談や意見交換を通して、自己の生活習慣を振り返り、がん予防等について意識を高め、命の大切さについて考える。(乳がんとは、がんと分かったとき、治療、

がんを子供に伝えるとき、「キャンサーギフト（人との出会い・人の優しさ・温かさ）」、「ヘアードネーション」、社会や人の支え、がん予防、早期発見）

富山市立藤ノ木中学校

- 教育課程上の位置付け 2 学年 保健体育科（保健）
- 実施日 令和5年11月7日（火）
- 授業内容 がんについて正しく理解し、自他の健康や命の大切さについて考えるとともに、がん患者に対する理解を深め、支え合って生きていく大切さを学ぶ。（2時間構成）
1 時間目 保健体育科の授業…単元「健康な生活と予防」内において「がんの予防」について学ぶ。
2 時間目（本時）外部講師による出前授業…実体験に基づいた講師の話「私のがん体験」を学年全体で聞く。（がん検診後の告知、検査や治療、病気になって分かったこと、がん早期発見のために等）

滑川市立早月中学校

- 教育課程上の位置付け 2 学年 保健体育科（保健）
- 実施日 令和5年11月14日（火）
- 授業内容 がんの予防と生活習慣、がんの早期発見とがん検診の重要性、がんの治療とがんに向き合う人の思いや願い等について学ぶ。（2時間構成）
1 時間目 保健体育科の授業…教科書を用い、がんという疾病、がんの要因・予防等について学ぶ。
2 時間目（本時）外部講師による出前授業…実体験に基づいた講師の話を学年全体で聞き、がんについて考える。（病気と向き合う日々、支えてくれた家族・友人・医療関係者・がん患者、人との繋がり、がん予防の大切さ、「がんを防ぐための新12条」）

南砺市立城端中学校

- 教育課程上の位置付け 3 学年 特別活動
- 実施日 令和5年11月15日（水）
- 授業内容 外部講師から体験を踏まえた話を聞き、健康や命の大切さについて考える。（がんの種類とその経過、がん告知と治療、がん予防、がんの早期発見・がん検診、がん患者の「生活の質」、がん患者への理解と共生、「キャンサーギフト」）

氷見市立西の杜学園

- 教育課程上の位置付け 8 学年 保健体育科（保健）
- 実施日 令和5年11月27日（月）
- 授業内容 外部講師から実体験に基づいた話を聞くことにより、がんを身近なこととして捉え、がんについての正しい理解を深める。（がんピアサポーターとは、がんの早期発見、がんの告知、がん治療、がんになって分かったこと）

富山県立富山工業高等学校（定時制）

- 教育課程上の位置付け 全学年 ホームルーム
- 実施日 令和5年10月4日（水）
- 授業内容 外部講師から「がんについて知る」と題した話を聞き、AYA世代についてやがん治療、がん検診、がんとともに生きていくこと等について学ぶ。

富山県立砺波工業高等学校

- 教育課程上の位置付け 1 学年 特別活動
- 実施日 令和5年12月7日（木）
- 授業内容 実体験に基づいた講師の話「がんから学んだこと」を聞き、自他の命の大切さについて考える。（がんと診断されるまで、がん治療（手術、放射線治療、化学療法）、がんを経験して思うこと、伝えたいこと）

(3) 教職員や外部講師を対象とした「がん教育」研修会

- 実施方法 ・養護教諭研修会（オンライン研修）において講義「学校教育におけるがん教育」を実施
・各学校で実際にがん教育を担当する指導者（外部講師、保健体育担当教諭等）も講義の視聴を通して研修が深まるよう動画配信
- 実施日 令和5年11月15日（木）
- 講師 富山大学附属病院臨床腫瘍部 総合がんセンター長 教授 林 龍二 氏

2. 事業の達成度について

「がん教育出前授業・外部講師を活用したがん教育」の実施について

- ・外部講師派遣については、学校の実態、児童生徒の発達段階（小・中・高）、授業内容の希望等を考慮して外部講師をコーディネートし、学校のニーズや授業のねらいに応じた授業を実施することができた。
〈検証〉児童生徒の事前事後アンケート結果より
- ・がん教育の重要性、がんについて正しく理解する意識の高まりがみられ、がんやがん患者との共生についての思いも深まった。
 - ①「がんの学習は健康な生活を送るために重要だ」の項目で「そう思う」と回答する割合
【 実施前 75.4% → 実施後 92.2% 】 ⇒ 「16.8」ポイント上昇 ↗
 - ②「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」の項目で「そう思う」と回答する割合
【 実施前 76.9% → 実施後 91.0% 】 ⇒ 「14.1」ポイント上昇 ↗
 - ③「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合
【 実施前 58.1% → 実施後 78.0% 】 ⇒ 「19.9」ポイント上昇 ↗
 - ④「がんと健康について、まず身近な家族から語ろうと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合
【 実施前 51.2% → 実施後 69.4% 】 ⇒ 「18.2」ポイント上昇 ↗
- 〈検証〉生徒の感想より
 - ・がんの痛みや心の苦しみは治すことができないので、周囲にがんになった人がいたら、寄り添うことが大切だと思った。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育の充実を図るための効果的な取組
 - ・令和4年度の取組を踏まえ、今年度は出前授業実施校の増加に努めた。実際にがんを経験されたがんピアサポーターの話を直接聞くことは効果的であり、児童生徒にとってもピアサポーターにとっても良い経験になることから、今年度も継続して県がん総合相談支援センターに外部講師（がんピアサポーター）の派遣を依頼した。がん教育等外部講師連携支援事業評価アンケート（児童生徒、学校（教職員）、協議会に対するアンケート）結果や協議会の意見において、学校の実態やニーズ等を考慮して外部講師をコーディネートすることが重要であることや、学校と外部講師が事前打合せを行い、指導のねらいを共有する必要性が示されたので、関係機関と連携し、より効果的な事業となるように取組を工夫していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 養護教諭をはじめとしてがん教育の必要性についての認識は広まっているが、教職員全体へのがん教育についての理解を広めることが必要である。今後も「がん教育」を担当する指導者に対する研修の機会の設定等を検討していく必要がある。
- 外部講師と連携したがん教育の有効性は理解されてきている。がん教育の普及・啓発において、出前授業の実践や先進事例の周知において効果的な方法を検討していきたい。